2021

COMPANY PROFILE

広島電鉄株式会社

Hiroshima Electric Railway Co., Ltd.

広電グループ経営の基本方針

（2020（令和2）年5月14日制定）

お客様に満足いただける高品質のサービスの提供

広電グループ経営ビジョン

（2020（令和2）年5月14日制定）

「人と人とをつなぎ、地域の魅力ある未来を拓く」

◯広電グループは、夢と志を共有する皆さまと力を合わせ、未来の広島にふさわしいまちづくりに挑戦します。

◯広電グループは、まちづくりを通じて地域社会の未来に貢献します。

◯広電グループは、従業員一人ひとりが未来に向けてチャレンジし、安心して能力を発揮できる環境づくりを推進します。

CONTENTS

広電グループ経営の基本方針 …… 1
広電グループ経営ビジョン …… 1
広電グループ経営戦略 …… 2
広島電鉄社員行動規範 …… 3
電車・バスの安全に係る行動規範 …… 3
鉄・軌道事業
　広島の未来を豊かに …… 5
自動車事業
　広島の元気を街々に …… 13
交通広告事業 …… 18
不動産事業
　広島の暮らしに潤いを …… 19
環境への取り組み …… 24
輸送の安全への取り組み …… 25
交通政策分野への取り組み …… 27
働きやすい環境づくりへの取り組み …… 28
地域社会との共創 …… 29
会社概要 …… 31
　概要／役員一覧／社是／無事故の誓い …… 31
　社紋／社歌／会社沿革図 …… 32
　沿革 …… 33
　組織図 …… 34
　連結業績ハイライト …… 35
　財務諸表（連結・個別） …… 36
　株式の発行状況／株主優待制度 …… 38
グループ紹介 …… 39
略年表 …… 41

広電グループ経営戦略

（2020（令和2）年5月14日制定）

広電グループは、経営戦略を通じて「持続可能な開発目標（SDGs）」を意識した社会的課題に積極的に取り組むことで、地域とともに持続的に成長していくことを目指してまいります。

1. 環境にやさしく、安全・安心なサービスの提供

- 電車超低床車両の導入
- 駅・電停の整備
- バス老朽車両の計画的代替

超低床車両の導入

駅・停留場の改良

バス車両の更新

2. わかりやすく使いやすい公共交通の整備

- 駅前大橋ルート計画の推進
- 再編実施計画に基づくバス路線再編
- わかりやすく利用しやすい運賃制度の導入

広島駅前大橋ルート（イメージ）

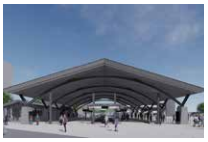
路線再編により誕生した
エキまちループ

MOBIRYデジタルチケットサービス

3. にぎわいの創出と新規事業による新たな取り組みの推進

- 宮島口周辺整備事業の推進
- 広島空港および周辺地域の活性化
- 公有地の民間活用Park−PFIへのチャレンジ

宮島口に開業した
観光商業施設「etto（エット）」


整備後の広電宮島口駅（イメージ）

広島空港運営事業への参画

4. 人財の確保・育成といきいきと働きやすい環境の追求

- クロスジョブ（社内兼業）制度の導入・拡大
- 事業再編・DX推進等に伴う人材の再配置
- 健康経営の推進

電車事業本部社員の勤務風景

バス事業本部社員の勤務風景

企業内保育施設
「ひろでんまめっこ保育園」

5. 持続的な成長と長期的な財務の安定性の確保

- 本社周辺整備
- マンション事業の推進
- 西広島周辺再開発

広島市中区東千田町周辺地区
での再開発検討

分譲マンション「ザ・府中レジデンス」

ひろでん会館跡地の暫定活用として
整備した「KOI PLACE（コイプレ）」

新型コロナウイルス感染拡大に伴う影響により、各事業とも非常に厳しい状況になっておりますが、ポストコロナに向けた既存事業の「変革」と新たな事業機会への「挑戦」に取り組み、より成長性の高い領域へ経営資本を再配分することを目指し、2021年5月に次の項目を追加しております。

6. 既存事業の変革と新たな事業機会への挑戦

7. 成長性の高い事業領域への経営資本再配分

広島電鉄社員行動規範

（2015（平成27）年6月1日制定）
（2019（平成31）年6月27日一部改定）

私たち広島電鉄の役員及び従業員は、地域社会に貢献し地域の皆様から信頼される企業でありつづけるために、行動規範を次のとおり定め、これに従い行動します。

1. 私たちは、お客様の安全を最優先に考えた行動をします。
2. 私たちは、「地域社会の一員である」との自覚を持ち、社会常識に沿った責任ある行動をします。
3. 私たちは、法令を遵守し、その内容・趣旨を正しく理解した行動をします。
4. 私たちは、お客様のニーズに合った、より良いサービスを提供します。
5. 私たちは、環境にやさしい行動に努め、地球環境の保護に積極的に取り組みます。
6. 私たちは、公共交通の担い手として、交通ルールやマナーを率先して守ります。
7. 私たちは、個人の人格と人権を尊重し、皆が安心して働くことのできる職場環境づくりに取り組みます。
8. 私たちは、自らの健康を保持し、増進させることに一丸となって取り組みます。
9. 私たちは、合理的かつ建設的な意見を具申し、社業の発展に努めます。

以 上

電車・バスの安全に係る行動規範

（2006（平成18）年11月1日制定）

1. 協力一致して輸送の安全確保に努めます。
2. 輸送の安全に関する法令及び関連する規程をよく理解するとともにこれを遵守し、厳正、忠実に職務を遂行します。
3. 常に輸送の安全に関する状況を理解するよう努めます。
4. 職務の実施に当たり、推測に頼らず確認の励行に努め、疑義のあるときは最も安全と思われる取り扱いをします。
5. 事故、事故のおそれがある事態、災害その他輸送の安全確保に支障を及ぼすおそれのある事態が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、すみやかに安全適切な処置をとります。
6. 情報は漏れなく迅速、正確に伝え、透明性を確保します。
7. 常に問題意識を持ち、必要な変革に果敢に挑戦します。

以 上

ノンステップバス
HINO

鉄·軌道事業

広島の未来を豊かに

LRTで都市機能の発展をめざす。
それが私たちの使命です。

LRT(Light Rail Transit)…従来の路面電車の走行環境·車両等をグレードアップさせた、
人や環境に優しく経済性に優れた公共交通システム。

運転を通じて、路面電車ならではの安心と温かさを。

電車営業部　千田営業課　**野田 由里菜**
(2003(平成15)年入社)

■担当業務

千田営業課で電車(市内線)の運転をしています。地域の方々だけでなく他県、海外から来られたお客様にも、広島の顔である路面電車に安全·安心·快適にご乗車いただけるよう、また路面電車ならではの温かさを感じていただけたらと思いながら運転しています。

■Staff Voice

「路面電車ってイイね。安心だね。快適だね。」と、感じてもらえるように日々頑張っています。お客様から「ご苦労様」とか「カッコイイですね」とお声を掛けてもらえると本当に嬉しく、やりがいを感じます。電車の運行に携わる仕事なので、基本的には不規則な勤務ですが、働き方改革で多様な働き方が可能になり、現在は家庭と仕事を両立させるために時短勤務を利用しています。結婚·出産を経ても仕事を続けていける環境が整っています。私の祖父母の世代から広島の路面電車は当たり前のように存在し利用されています。そんな路面電車のある風景が子や孫、その先の世代まで広島の街に当たり前に存在し、なくてはならないとお客様や地域の方々に思っていただけるように日々の業務に取り組んでいこうと思います。

未来へつながる魅力溢れる駅をつくるために。

電車企画部　電車企画課　広島駅·宮島口推進プロジェクト　**松田 瑞生**
(2020(令和2)年入社)

■担当業務

広電宮島口駅移設工事のプロジェクトメンバーの一員として、事業のマネジメントに携わっています。事業を円滑に完了させることを目標に、社内の担当者や行政をはじめとした社外の関係者との調整を中心に、当工事に関わる業務全般を担っています。

■Staff Voice

当事業は規模が大きく、会議の場では専門的な会話に圧倒されたり、臨機応変な対応が求められる場面もあるため不安に思うこともありますが、日々成長できている実感を持って仕事に取り組んでいます。また、宮島口地区が大きく変わろうとしている今、担当としてこの事業に携われていることに強く誇りを感じています。宮島観光をより楽しく、そして宮島口地区にさらなるにぎわいを生みだせるような、お客様に愛される駅を目指して、責任を持って日々の業務に取り組んでまいりたいと思います。

●鉄･軌道事業の概要

■電車の概要

電車事業は、軌道事業の広島市内を運行する市内線（軌道区間）19.0kmと鉄道事業の広電西広島～広電宮島口間の宮島線（鉄道区間）16.1kmを合わせた、計35.1kmを営業しており、全線複線で運行系統は8系統あります。現在の車両数は、鉄道･軌道合わせて連接車両62編成･単車74両（計291両）で、路面電車では国内最多の1日平均10万5千人のお客様にご利用いただいております。（2021（令和3）年3月末現在）

1912（大正元）年11月23日の開業以来、原爆被災の数日間を除いて運行を続け、昭和40年代にはモータリゼーションの進展や道路渋滞による利用者の減少から、全国的に路面電車が廃止される中で、広島においては自動車の軌道敷内乗り入れ禁止、電車優先信号の設置、交差点への軌道敷内停止禁止ゾーンの設置など、路面電車の走行環境の改善施策を行政とともに実施しました。また、老朽化した車両の代替に伴って、車両の大型化を図るため、京都、大阪、神戸、北九州、福岡などの路面電車が廃止となった各都市から111両を購入し、経費の削減に努めました。

これらの車両は各都市で使用されていたカラーのまま運行させたため「動く電車の博物館」と呼ばれ、全国的にも有名になりました。

1980（昭和55）年からは、3500形を皮切りに、新しい技術を取り入れた新型車両の導入を積極的に進めて車両の近代化を図りました。

また、車両のバリアフリー化促進のため超低床車両の導入を進めており、1999（平成11）年以降、5000形「グリーンムーバー」12編成、5100形「グリーンムーバーマックス」10編成、1000形「グリーンムーバーレックス」18両、5200形「グリーンムーバーエイペックス」6編成を順次導入し、2021（令和3）年3月末には計46両･編成が運行しており、今後も増備する予定です。

施設面では、停留場の延長、拡幅および上屋の増設、軌道改良工事など諸設備の改善整備を積極的に行うほか、他の交通モードとの乗継利便性を向上させるため、交通結節点の整備にも力を入れてきました。

また、2008（平成20）年2月からは、電車到着予測時間や行先系統等、多種多様な情報をリアルタイムに表示する電車ロケーションシステムを主要駅･停留場に設置し、利用者の利便性向上に努めています。

これらの取り組みを一体的に進めることによって、従来の路面電車に比べ乗降の容易性、定時性、速達性、快適性などの面で優れたLRTの構築に努めています。

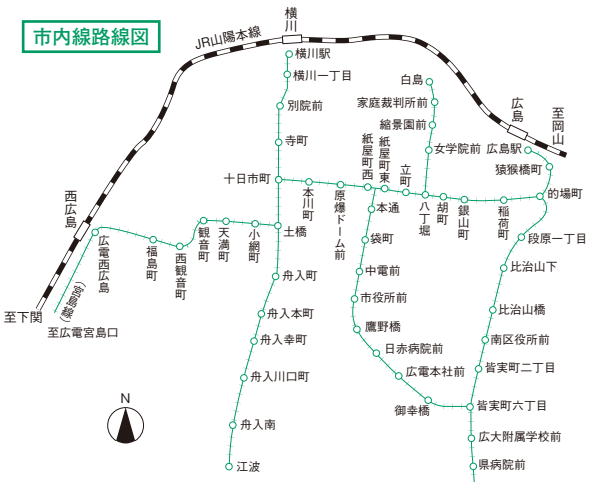
■市内線（軌道）

市内線の営業キロは19.0km、在籍車両は14編成・74両（計144両）で、1日平均7万1千人のお客様にご利用いただいています。（2021（令和3）年3月末現在）

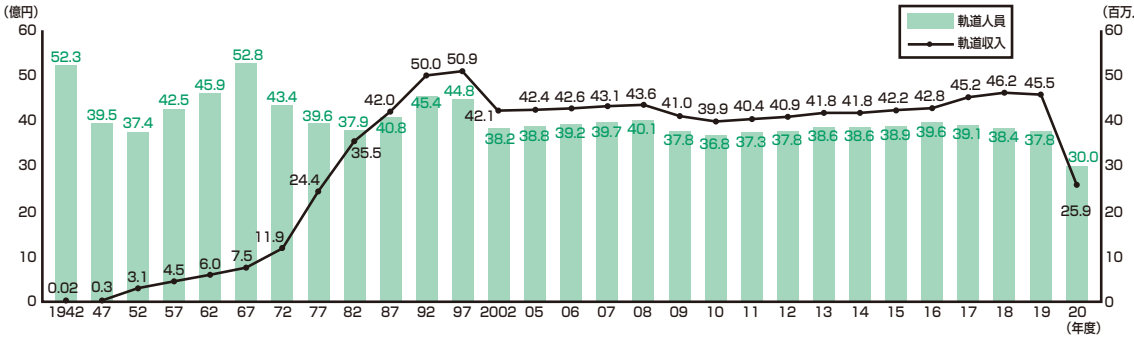
市内線では、広島の玄関口であるJR広島駅、JR横川駅、JR西広島駅および広島港から市内中心部を路面電車で結んでおり、広島市民や観光客の欠かせない足として親しまれています。宮島線との直通電車には、大型車両を運行していますが、市内線においても、基幹路線である1号線をはじめ、5号線の朝ラッシュ時にも大型車両を運行しています。

また、主に1号線を運行している超低床車両「グリーンムーバー」「グリーンムーバーマックス」のほか、2013（平成25）年2月から順次導入を進めている1000形を市内線の各系統へ投入し、全路線において超低床車両の運行を行っています。

市内線路線図



■市内線（軌道）輸送人員・旅客収入の推移



【普通運賃】

●市内線（軌道）

均一190円

（白島線は130円）

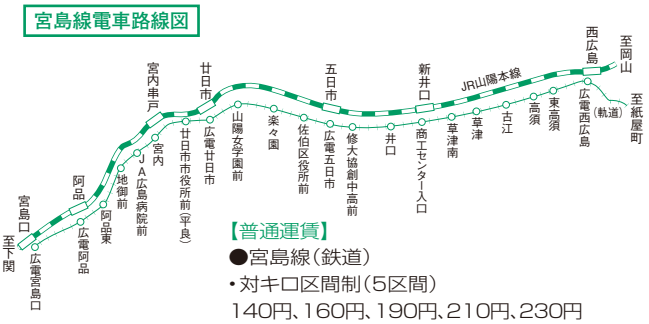
■宮島線（鉄道）

宮島線は、西の玄関口である広電西広島から広島都市圏のベッドタウンである西部沿岸地帯沿いに、日本三景のひとつ「安芸の宮島」の玄関口といわれる広電宮島口までを結んでいます。宮島線の営業キロは16.1km、在籍車両は、連接車45編成（147両）で、1日平均3万4千人のお客様にご利用いただいています。（2021（令和3）年3月末現在）

鉄道線の開業以来、広電西広島（己斐）を境に鉄道と軌道で車両や運行が分かれて、乗り換えの不便がありましたが、1958（昭和33）年4月から一部市内電車の宮島線への直通乗り入れを開始し、現在では、ほぼ全便が市内中心部から宮島線へ乗り入れる「直通電車」として運行しています。

また、宮島線には超低床車両「グリーンムーバー」「グリーンムーバーエイペックス」18編成が在籍しており、昼間時間帯には広島駅から広電宮島口間を運行する2号線の約8割を超低床車両で運行しています。

宮島線電車路線図



【普通運賃】

●宮島線（鉄道）

・対キロ区間制（5区間）

140円、160円、190円、210円、230円

●鉄軌道連絡

・5区間

（東高須ー草津）～市内……190円

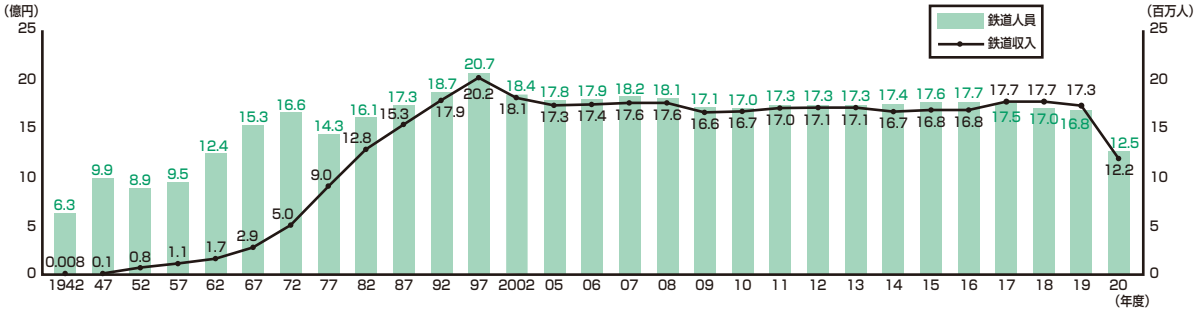
（草津南ー修大協創中高前）～市内…200円

（広電五日市ー広電廿日市）～市内…230円

（廿日市市役所前ー阿品東）～市内…250円

（広電阿品ー広電宮島口）～市内……270円

■宮島線（鉄道）輸送人員・旅客収入の推移



●設備とサービスの向上

1.交通結節点の改善

①広電西広島停留場（2001（平成13）年11月供用開始）

広電西広島停留場は、鉄道と軌道が接続する駅で、以前は別々のホームで乗降を行ってきましたが、軌道側の停留場（己斐停留場）を一部廃止し、鉄道側のホームに統合しました。

更に、超低床車両「グリーンムーバー」導入に伴い、ほぼフラットで乗降できるようホーム高を25㎝から30㎝にマウントアップさせ、点字ブロックの設置、段差のスロープ化等構内のバリアフリー化を行いました。

また、この整備にあわせて、これまでの駅舎にない巨大なドーム型屋根を設置することで開放感溢れる空間を演出し、斬新なデザインと開放感溢れる空間作りが高い評価を得て、その後の広島の交通結節点モデルとなり、横川駅停留場や広島港停留場における交通結節点の施設づくりへとつながりました。

②横川駅停留場（2003（平成15）年3月供用開始）

横川駅周辺はJR山陽本線・可部線、路線バス、路面電車が集中する交通結節点でありながら、駅と路面電車の停留場が離れていましたが、横川駅を、広島駅・広電西広島駅に次ぐ都心部への第三の玄関口とするべく、国土交通省、広島市、広島県警察本部等と協力し、停留場を駅前広場内へ移設しました。

駅前広場内への路面電車の乗り入れと、JR改札口が移設されたことで、改札口と停留場までの移動距離が約50mに短縮され、併せて行った駅前広場の整備により、他の交通モードとの乗り換えの利便性が向上しました。

③広島港停留場（2003（平成15）年3月供用開始）

広島県の港湾事業で新広島港宇品旅客ターミナルが以前の広島港停留場より250m離れた位置に建設されるのにあわせて、停留場施設を終端部の新旅客ターミナル前に移設、海上・陸上の交通結節点としての整備を行ったことで、旅客船との乗り継ぎ利便性が向上しました。

新広島港宇品旅客ターミナルと広島港停留場を、広電西広島停留場と同様に大屋根でつなぐ一体的な整備により停留場が開放感溢れる空間となり、賑わいと憩いの場を創出するとともに、乗り換え抵抗の軽減を図りました。

2.駅とバス停の一体的な整備

2006（平成18）年6月に、宮島線廿日市市役所前駅下り（宮島口方面）ホームと当社バスおよびさくらバス（廿日市市自主運行バス）の停車するバス停を一体化させる整備を行い、同一のホームで鉄道とバスを乗り継ぎ可能にすることで、利便性を向上させるとともに、駅施設のバリアフリー化を図りました。

また、宮島線広電阿品駅についても、下りホームの道路側に設置されていた背板の一部撤去と、バスロケーションシステムの新たな設置により、同一ホームで電車・バスの乗り継ぎができるよう整備しました。

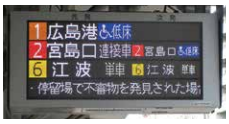
3.停留場のバリアフリー化

交通バリアフリー法に対応した停留場への整備を進めており、法に定める基準よりも緩やかな勾配（5%）のスロープを設置したり、2mのホーム幅員を確保したりすることで、車いすをご利用のお客様にも容易に通行いただけるよう高規格の停留場にしています。

2017（平成29）年度は、広電本社前停留場の大幅改良を行いました。将来、中心部から宇品方面や検討中の循環ルートへの乗り換えを担う電停と位置づけ、電停幅員を3mに拡幅。ホーム長を約20m、上屋長を約30m延長し、スロープ勾配の緩和やホームのかさ上げも実施しました。加えて空調機を備えた待合所も設置し、乗り換え抵抗を軽減するモデル的な電停として整備しました。

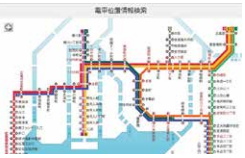
4.電車ロケーションシステム

各車両の運行状況を電車位置を検知するトロリーコンタクターによって運行管理者に知らせて、運行の乱れ是正や運行回復を図る一方、運転士には運転のコントロールを、また電車待ちの乗客には電車接近と行き先情報を知らせて、電車がいつ来るかわからないという不安感を少しでも解消させるという、多角的な機能を発揮する画期的なシステムで、まず1980（昭和55）年3月に広島駅～広電西広島間に設置、1985（昭和60）年3月には全線に設置し、さらに1986（昭和61）年には、この技術を基に宮島線全線にも設置しました。



また、2008（平成20）年2月から到着予測や行先系統・電車種別・文字案内表示等、多種多様な情報をリアルタイムに表示する新型ロケーションシステムを設置しました。現在では、市内線主要停留場17箇所（紙屋町東・西、原爆ドーム前、市役所前等）および宮島線駅19箇所（広電宮島口を除く全駅）に設置するとともに、停留場以外の公共的空間である紙屋町シャレオの地下広場にも設置し、利用者の利便性向上を図りました。

5.電車運行情報提供システム



各停留場における電車の到着予測時刻を、インターネット経由でパソコンやスマートフォン、タブレット端末等で確認できるサービスです。ご利用の駅・停留場を選択すると、その駅・停留場を通過する電車の行先・車種・到着予測時刻を表示します。また切替ボタンにより超低床車両のみを表示することも可能です。

●電車位置情報　https://location.hiroden.co.jp/

6.列車無線

列車を安全でスムーズに運行させるため、1986（昭和61）年、広電西広島停留場の運転指令所と宮島線・市内線を直通運行する全列車に列車無線を整備し、現在では市内線用も含めた全営業車両に整備しております。これにより、通常の運行指示や業務連絡はもちろん、万一の事故、災害、急病人等に対しても、個別通話や全車への一斉通報により迅速かつ適切な指示連絡を行うことができます。

7.ARC（Automatic Route Control）装置

市内線の分岐箇所における電車の行先を切り替えるポイント制御は、トロリーコンタクターにより進路を選別する方法をとっていますが、選別時間を要し、電車通過本数が1日に900本を超える紙屋町交差点においては電車を円滑に処理できないため、長年信号扱い者により手動で連動操作を行ってきました。

紙屋町交差点のように電車運行本数が多く、複雑な処理が必要とされる場所を自動化することを可能にしたのがARC装置です。

この装置は、電車の側面に行先等の情報を記録できるIDプレートを取り付け、始発駅および折返し駅でアンテナにより非接触で情報を書き込み交差点付近に差し掛かると、アンテナにより非接触で情報を読み取り、パソコンによって電車通過の優先判断等をし、電車信号を現示するシステムになっており、紙屋町交差点の他十日市、皆実町六丁目交差点に設置しています。

8.電車優先信号システム

交差点の交通信号機が電車の接近を検知すると、その時の交通信号のタイミングにより青信号の延長、赤信号の短縮などの信号制御を行い、電車の運行をスムーズにさせるもので、1974（昭和49）年3月に導入されてから、現在は4ヶ所に設置され、電車運行の効率アップが図られています。

9.サイン類の多言語表記

電車沿線には多くの観光スポットがあり、特に世界遺産でもある「原爆ドーム」や、「嚴島神社」のある宮島を訪れる観光客が国内外から数多く来広されるため、駅・停留場や電車車内におけるサイン類の多言語化を進めています。

現在では、市内線全停留場の停名板を4ヶ国語（日本語、英語、韓国語、中国語（簡体字））で表記しているほか、広島駅や広電西広島等の主要駅・停留場の誘導サイン類も4ヶ国語表記に整備しています。

10.介護者・幼児の運賃制度見直し

施設だけでなく、制度の面でもバリアフリー化を促進するため、2006（平成18）年1月より、第1種身体障がい者等および12歳未満の第2種身体障がい者等が介護者同伴で乗車する場合、介護者の運賃を2名まで無料とし、移動にハンディキャップを抱えた方にも電車をご利用いただきやすい運賃制度に改定しました。

また、大人または小児が幼児（1歳～小学校入学前の子ども）を連れて乗車する場合、同伴する幼児の運賃を最大で3名まで無料とし、子育て支援にも積極的に取り組んでいます。

11.グリーンムーバーLEX（1000形）限定 ICカード全扉降車サービス

2018（平成30）年5月10日より、超低床車両グリーンムーバーLEX（1000形）でICカードをお一人でご利用される場合、運転台扉に加えて入口扉からも降車いただけるようにいたしました。これにより、降車時の車内移動負担低減により、利便性向上を図りました。

12.市内線ICカード再乗車サービス

2019（令和元）年10月1日より、ICカードをご利用の方は市内線全電停において降車後60分以内に降車された電停から後戻りとならない乗車に限り引き去りなしでの再乗車が可能となりました。

13.広電宮島口駅周辺整備について

日本三景・世界文化遺産の島として知られる宮島の対岸・宮島口には、護岸の整備、旅客ターミナルの機能充実、交通の円滑化、生活環境向上、良好な景観形成、賑わい創出等の課題がありました。広島県と廿日市市は、宮島口地区に宮島の玄関口にふさわしい機能を確保するため、埋立や旅客ターミナル、緑地、道路の整備などに取り組んでいます。これに合わせ、当社は2020年4月に旅客ターミナル隣接地に観光商業施設「etto」を整備したほか、2020年度から広電宮島口駅及び軌道の移設に着手し、2022年6月の供用開始を目指しています。

14.広島駅前大橋ルートへの取り組み

広島市は現在、広島駅周辺地区と紙屋町・八丁堀地区を東西の核とする「楕円形の都市づくり」を推進しており、双方を結ぶ路面電車のルートが迂回して広島駅前広場に進入していることで、所要時間が長くなっていることが課題でした。

所要時間の短縮に向けて、広島駅ビル敷地を活用し、都市計画道路駅前吉島線に軌道を移設し駅前大橋南詰から高架とする駅前大橋ルート整備を、2025年春の完成を目指して取り組んでいます。また、あわせて段原一丁目、的場町、八丁堀、紙屋町、市役所前、皆実町六丁目、段原一丁目を循環するルートを新設する予定です。

●各種受賞歴紹介

■各賞の受賞

これまでの「チンチン電車」のイメージから、路面電車を機能向上させた「LRT」への進化や、駅・電停のバリアフリー化やシームレス化を図り、乗降客の利便性の向上や安全確保への努力が認められ、各賞を受賞しています。

グローリア賞 受賞

鉄道友の会が、鉄軌道の運営と業績に優れた事業者を選んで贈る、グローリア賞の制定第1号の対象として1984（昭和59）年に受賞しました。

グッドデザイン賞 受賞

超低床車両「グリーンムーバー」（5000形）が1999（平成11）年度グッドデザイン賞において、福祉的な視点に配慮し広範な利用者に対応している点を評価され、通商産業大臣賞（ユニバーサルデザイン賞）を受賞しました。（1999（平成11）年12月）

また、2005（平成17）年度に「グリーンムーバーマックス」（5100形）が、2019年（令和元）年に「グリーンムーバーエイペックス」（5200形）がグッドデザイン賞をそれぞれ受賞しており、いずれもデザイン面で高い評価をいただいております。

日本サインデザイン賞（SDA賞） 受賞

SDA賞は、優れたサインデザイン作品を広く社会にアピールすることによりサインデザインの普及および啓発を図ることを目的として、1966（昭和41）年以来続けられてきたわが国で唯一のサインデザインに関する顕彰事業で、1998（平成10）年度には「グリーンライナー」（3950形）がサインデザイン優秀賞、また2000（平成12年）度には「グリーンムーバー」（5000形）がサインデザイン大賞（通商産業大臣賞）を受賞

しました。

ローレル賞 受賞

鉄道友の会より、製作意図、技術、デザインなど優れた車両として、超低床車両「グリーンムーバー」(5000形)が2000(平成12)年度ローレル賞を受賞しました。また、2006(平成18)年度には「グリーンムーバーマックス」(5100形)もローレル賞を受賞しました。

日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞 受賞

2003(平成15)年度に、国土交通省・鉄道の日実行委員会の「利用者利便の向上への貢献」部門において、「これまで離れていた電車停留場を鉄道駅前や旅客船ターミナル前に移設することにより、乗り換え利便の向上を図ったことと、併せて駅舎を覆う大型のドーム型屋根を設置することで、地域のランドマークを作り出した」ということで受賞しました。(2003(平成15)年10月)

また2005(平成17)年度には、「鉄道の利用促進と利便性向上、より環境にやさしい交通の実現に向けて」部門において、「国産超低床車両の導入による路面電車の利便向上」として、2回目の受賞をしました。(2005(平成17)年10月)

さらに、2015(平成27)年度には、「被爆と復興の記憶」特別賞として、株式会社中国放送様と共同で行った「被爆電車特別運行プロジェクト」が受賞し、これで3回目の受賞となりました。(2015(平成27)年10月)

バリアフリー化推進功労者表彰・内閣官房長官賞 受賞

「超低床車両の計画的な導入と並行して、電停の改良整備を行い、バリアフリー化と利便性の向上に努めたことと、さらに、超低床車両の普及促進のため、国産車両の共同開発にも取り組んでいる」ことが、功績として認められ内閣府から受賞しました。(2003(平成15)年11月)

●車　両

1.概　要

車両は、大きく分けて単車(全長約14～18m)と連接車(全長26～30m)に区分されます。単車は、市内線でワンマン運行しており、連接車は、宮島線と市内線を直通する2号線や市内線の広島駅から広島港を市内中心部経由で結ぶ1号線で主に運行しています。

車両の運用については、かつては他都市からやってきた古い電車が主力として活躍していましたが、現在では車両の大型化、バリアフリー化を図っており、新しい車両を積極的に投入しています。

現在では46両・編成の超低床車両が運行しています。超低床車両は、床が低くホームからの段差のないバリアフリーな構造で、省エネルギー・低騒音・低振動など環境にも配慮した車両です。

当社は、超低床車両の導入開始時期は、熊本市交通局に次ぐ日本で2番目ですが、超低床車両の保有車両数では日本で最大です。

2.軽快電車

軽快電車3500形車両は財団法人日本鉄道技術協会の開発研究委員会で、3年の年月をかけて1980(昭和55)年夏に完成し、当時わが国における技術の粋を集めてつくられた高性能車両です。

3500形は路面電車の近代化に大きな役割を果たし、その車両技術は後に登場した各車両に反映されています。また3800形、3900形、3950形は、その後登場した超低床車両と同じ交流モーター駆動のVVVFインバータ制御方式を採用しています。

3.超低床車両

5000形「グリーンムーバー」の特色

5000形グリーンムーバーは、「人と環境に優しい」をテーマに、当社が初めて導入したドイツ製の超低床車両です。床面の高さをレール面より33cmとしたことで、停留場から段差なしで乗降でき、車椅子やベビーカーで利用されるお客様や高齢者の方等のスムーズな乗降を可能としています。

1999(平成11)年6月から運行開始しており、2002(平成14)年11月までに12編成導入しました。

5100形「グリーンムーバーマックス」の特色

5100形グリーンムーバーマックスは、国産初の独立車輪方式による超低床車両として広島電鉄とメーカー3社で共同開発した車両です。

2005(平成17)年から順次導入し、2008(平成20)年3月までに10編成導入しました。5000形と同じ5車体3台車の超低床車両ですが、ULTIMATE(アルティメート・究極の)、URBAN(アーバン・都会的)、USER FRIENDLY(ユーザーフレンドリー・お客様にやさしい)の3点を開発コンセプトとして、床面が低く段差のない特長に加え、座席数の増加や通路幅の拡大、車内照明の明るさ向上等、電車を利用されるお客様からの要望と、運転操作性やメンテナンス性の向上といった電車を運用する側の要望の双方を取り入れた車両です。

1000形「グリーンムーバーLEX」の特色

1000形は、5100形グリーンムーバーマックスのバリアフリー性能を継承しながら、全長を30mから18.6mにすることにより、市内線全ての路線で運行できるようにした車両で、制御装置、補助電源装置、空調装置、車両情報装置等を新設計し、機能性、静粛性およびメンテナンス性の向上を図りました。

1000形は「グリーンムーバーLEX」として、水と緑の街、広島の景観イメージを表現した車両デザインを採用しています。

2013(平成25)年2月から運行開始し、現在18両が市内線で運行しております。

5200形「グリーンムーバーエイペックス」の特色

5200形は、5000形、5100形と同じ5車体3台車構造の全長30m級の車両です。車両名のエイペックス(APEX)とは、頂点などの意味を持ち、グリーンムーバーシリーズの最先端であることを表しています。「未来×スピード」を基本コンセプトに、"新しい広島のシンボル"となるデザインとしました。座席数の増大や、フルカラー液晶ディスプレイ(LCD)の案内表示器を設置し、次駅の案内や運賃の案内を日本語の他に、英語、中国語、韓国語で表示をし、多くのお客様に情報提供できるようにしました。2019(平成31)年3月より営業運行を開始し、現在6編成ともが2号線(広島駅～広電宮島口)で運行しております。

4.車庫(検車・整備)

市内線車両は千田車庫、江波車庫、直通車両は荒手車庫にそれぞれ配置されています。車庫は、車両を格納・留置する場所であり、同時に在籍する車両の整備を行う基地でもあります。

各車庫では、1～2週間ごとに行う交番検査、3か月に1回に行う月検査を含む保守検車全般を実施しています。また、千田車庫では全車両の重要部検査(3年又は4年に1回)、全般検査(6年又は8年に1回)という車両の主要部分を分解して手入れを行う定期検査を実施しています。

●車両の概要

100形

1984(昭和59)年の広島県観光キャンペーンのため、150形を改造し1912(大正元)年開業時の100形電車を再現したレトロな車両です。通称「大正形電車」と呼ばれています。

●製造初年　1925(大正14)年(1984(昭和59)年更新)
●定　　員　46人(うち座席26人)
●最大寸法　8,540mm×2,310mm×3,883mm
●主電動機　直流直巻電動機　26kW×2台
●制御方式　抵抗制御
●制動方式　直通空気制動機

200形

1988(昭和63)年に姉妹都市提携5周年を記念して広島市からハノーバー市へ組み立て式の茶室を贈呈した返礼として、翌年1989(平成元)年にハノーバー市から広島市へこの電車が寄贈されました。年末にはクリスマス電車としてサンタクロースを乗せて市内を走ります。

●製造初年　1928(昭和3)年
●定　　員　46人(うち座席24人)
●最大寸法　11,100mm×2,280mm×3,750mm
●主電動機　直流直巻電動機　46kW×2台
●制御方式　抵抗制御
●制動方式　直通空気制動機

570形

1971(昭和46)年に神戸市電が廃止になったのにあわせ、神戸市交通局より購入しました。選挙期間にはキャンペーン花電車として市内を走っています。神戸市交通局から購入した車両はこの他に1150形も運行しています。

●製造初年　1926(大正15)年【車体更新1960(昭和35)年】
●定　　員　88人(うち座席42人)
●最大寸法　13,410mm×2,375mm×3,777mm
●主電動機　直流直巻電動機　45kW×2台
●制御方式　抵抗制御
●制動方式　直通空気制動機

600形

1975(昭和50)年の西鉄北九州市内線廃止に伴い、1976(昭和51)年に西日本鉄道株式会社より購入しました。スマートな車体と赤い塗装がひときわ目を引く車両です。

●製造初年　1948(昭和23)年
●定　　員　80人(うち座席40人)
●最大寸法　13,620mm×2,400mm×3,950mm
●主電動機　直流直巻電動機　45kW×2台
●制御方式　抵抗制御
●制動方式　直通空気制動機

650形

「被爆電車」として知られており、1942(昭和17)年に5両製造され、原爆で被災しましたが修復を経て、2両が現在も営業運行しています。

●製造初年　1942(昭和17)年
●定　　員　80人(うち座席32人)
●最大寸法　12,380mm×2,483mm×3,839mm
●主電動機　直流直巻電動機　38kW×2台
●制御方式　抵抗制御
●制動方式　直通空気制動機

700形

従来とは一線を画した軌道車両で、24年ぶりに新造された車両です。新しい"ひろでんタイプ"を形づくった車両です。

●製造初年　1982(昭和57)年
●定　　員　91人(うち座席37人)
●最大寸法　13,500mm×2,450mm×3,990mm
●主電動機　直流直巻電動機　52kW×2台
●制御方式　間接自動加速方式
●制動方式　電磁直通空気制動器

750形

1969(昭和44)年に大阪市電が廃止となるのを受け、1965から1968年(昭和40年～43年)にかけて大阪市交通局から購入しました。路面電車としては大型で、新造車に替わるまでは主力として活躍しました。大阪市交通局から購入した車両はこの他に900形も運行しています。

●製造初年　1940(昭和15)年
●定　　員　94人(うち座席40人)
●最大寸法　13,700mm×2,480mm×3,845·3,840mm
●主電動機　直流直巻電動機　45kW×2台
●制御方式　抵抗制御
●制動方式　直通空気制動機

750形「トランルージュ」

768号を内装·外装ともに大幅に改造した車両です。外装は、赤と黒を基調としており、内装はブラック調でシックな雰囲気としております。また、ビールサーバーや冷蔵庫、映像機器等を備え付けており、2016(平成28)年7月より飲食のできるイベント電車として運行中です。

●製造初年　1950(昭和25)年
●定　　員　座席のみ26人
●最大寸法　13,700mm×2,480mm×3,840mm
●主電動機　直流直巻電動機　45kW×2台
●制御方式　抵抗制御
●制動方式　直通空気制動器

800形

この電車は単車の主力車両で、チョッパ制御方式、ディスクブレーキの採用など近代化された設備を備えています。
また、近年は、制御方式をVVVFインバータ制御への更新を行っております。

●製造初年　1983～1997（昭和58～平成9）年
●定　　員　91人（うち座席37人）・69人（37人）
●最大寸法　13,500・13,680mm×2,450mm×3,820mm
●主電動機　直流複巻電動機　60kW×2台
●制御方式　電機子チョッパ制御、VVVFインバータ制御
●制動方式　回生ブレーキ併用直通空気制動機

1900形

1978（昭和53）年に京都市電が廃止となったのを受け、京都市交通局から購入しました。屋根の両サイドに取り付けられた前照灯と車体中央のオレンジのラインが特徴です。各車両に京都にちなんだ愛称「東山」、「舞妓」、「金閣」、「祇園」、「大文字」など15種類あります。

●製造初年　1957（昭和32）年
●定　　員　85人（うち座席36人）
●最大寸法　12,880mm×2,440mm×3,814・3,815mm
●主電動機　直流直巻電動機　45kW×2台
●制御方式　抵抗制御
●制動方式　直通空気制動機

1000形

市内線での運行を目的に導入したワンマン仕様のコンパクトな超低床車両です。この「グリーンムーバーLEX」の導入によって、これまで大型の超低床車両が運行できなかった路線を含め、全ての路線で超低床車両が運行できるようになりました。

●製造初年　2013（平成25）年～
●定　　員　86人（うち座席33人）
●最大寸法　18,600mm×2,496mm×3,645mm
●主電動機　三相かご形誘導電動機　100kW×4台
●制御方式　VVVFインバータ制御
●制動方式　回生・発電ブレーキ併用油圧制動機　レールブレーキ

3000形

西鉄福岡市内線を走っていた車両を1976（昭和51）年に西日本鉄道株式会社から購入し、広電初の3両連接に改造した車両です。移籍当時は宮島線への直通運転を行っていましたが、現在は全編成が市内線での運行となっています。

●製造初年　1954～1964（昭和29～39）年
●定　　員　180人（うち座席76人）
●最大寸法　25,250mm×2,400mm×3,940mm
●主電動機　直流直巻電動機　62kW×4台
●制御方式　抵抗制御
●制動方式　直通空気制動機

3950形

この電車は3900形車両をモデルチェンジした車両で、前面形状、外観塗装、車窓等を一新し、都市内交通の中で近代化を図る車両として「グリーンライナー」と命名しました。特に外観デザインは注目を浴び、新しい路面電車をアピールするものとなりました。

●製造初年　1997（平成9）年
●定　　員　152人（うち座席66人）
●最大寸法　27,360mm×2,496mm×3,820mm
●主電動機　三相かご形誘導電動機　85kW×4台
●制御方式　VVVFインバータ制御
●制動方式　回生ブレーキ併用直通空気制動機

5000形

この電車はドイツ製の超低床車両で、都市内の移動を容易にする「都市の装置」として「グリーンムーバー」と命名しました。乗降の容易性、移住性の向上、車両の高性能化、車内通路幅の確保、輸送力確保を設計項目としています。

●製造初年　1999（平成11）年
●定　　員　153人（うち座席46人）
●最大寸法　30,520mm×2,496mm×3,645mm
●主電動機　三相かご形誘導電動機　100kW×4台
●制御方式　VVVFインバータ制御
●制動方式　回生・発電ブレーキ併用油圧制動機　レールブレーキ

5100形

国産初の完全超低床車両「グリーンムーバーマックス」は、2005（平成17）年3月より営業運転を開始しました。バリアフリー化の促進に努め、快適性・利便性の向上を図るとともに、その斬新なデザインは、都市景観の向上にも貢献しています。

●製造初年　2005（平成17）年
●定　　員　149人（うち座席56人）
●最大寸法　30,000mm×2,496mm×3,645mm
●主電動機　三相かご形誘導電動機　100kW×4台
●制御方式　VVVFインバータ制御
●制動方式　回生・発電ブレーキ併用油圧制動機　レールブレーキ

5200形

宮島線向けの超低床車両「グリーンムーバーエイペックス」は、2019（平成31）年3月より営業運転を開始しました。「未来×スピード」を基本コンセプトに、"新しい広島のシンボル"となるデザインとしました。多言語対応車内案内表示器の設置により、海外からの利用者にも情報提供できるようにしました。

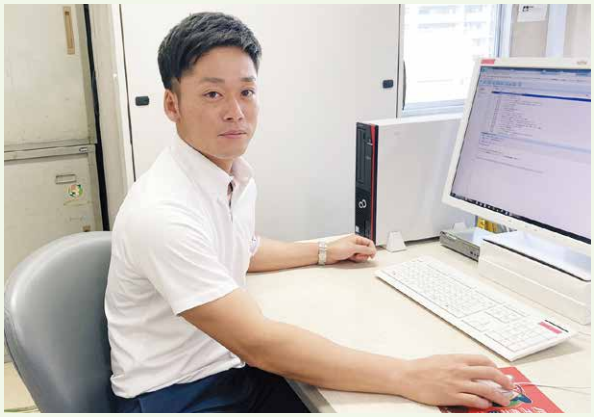
●製造初年　2019（平成31）年
●定　　員　151人（うち座席58人）
●最大寸法　30,000mm×2,496mm×3,645mm
●主電動機　三相かご形誘導電動機　100kw×4台
●制御方式　VVVFインバータ制御
●制動方式　回生・発電ブレーキ併用油圧制動機　レールブレーキ

※最大寸法は「長さ×幅×高さ」

自動車事業

広島の元気を街々に

きめ細かなネットワークで信頼をつなぐ。
それが私たちの希望です。



変化する時代に応じ、求められる公共交通を形づくっていきたい。

バス企画部　業務課　**南 敦也**
（2016（平成28）年入社）

■担当業務

路線バスの運賃・ICカードの担当をしています。運賃改定等の認可申請手続きを行い、バスの運行に必要なデータ作成を行います。また、利用促進施策の企画・実施等も行っています。

■Staff Voice

お客様にとって生活の一部である公共交通に携わっているという意識を持ち、ひとつひとつの仕事を丁寧に行うよう心がけています。企画を実施することでバスの利用者が増えたり、お客様から「便利になった」等のお声をいただくのを励みに頑張っています。

これからも時代の変化とともに公共交通に求められることも変わってくると思うので、ニーズにあった企画を考えていきたいです。

信頼と歴史の重みを胸に、誰もに優しい「広電人」を育てたい。

都市圏輸送営業部　曙営業課　係長　**宮本 健一**
（1996（平成8）年入社）

■担当業務

曙営業課の運行管理者として、広島市東部・府中町を運行する路線の運行管理業務を担当しています。お客様のニーズに適した運行ダイヤの検討や、正常かつ安心安全な運行を提供するための乗務員教育など、日々緊張感を持ち業務に取り組んでいます。

■Staff Voice

誰もが気軽に利用しやすい優しいバス、特に高齢者や、車いす・ベビーカーをご利用のお客様へ、自ら進んで寄り添える親切で優しい運転士「広電人」を育てていきたいと思っています。その優しさが安全運転や環境保全に結び付くと信じています。

先輩方が永年にわたり築き上げてこられた、広島電鉄への信頼と歴史の重みを感じつつ、この先も一歩一歩確実に信頼を積み重ね、安全に走り続けることが、現在働いている我々の責任です。それが変化していく未来にも対応できる、広島電鉄の姿に繋がっていくものだと思います。

●自動車事業の概要

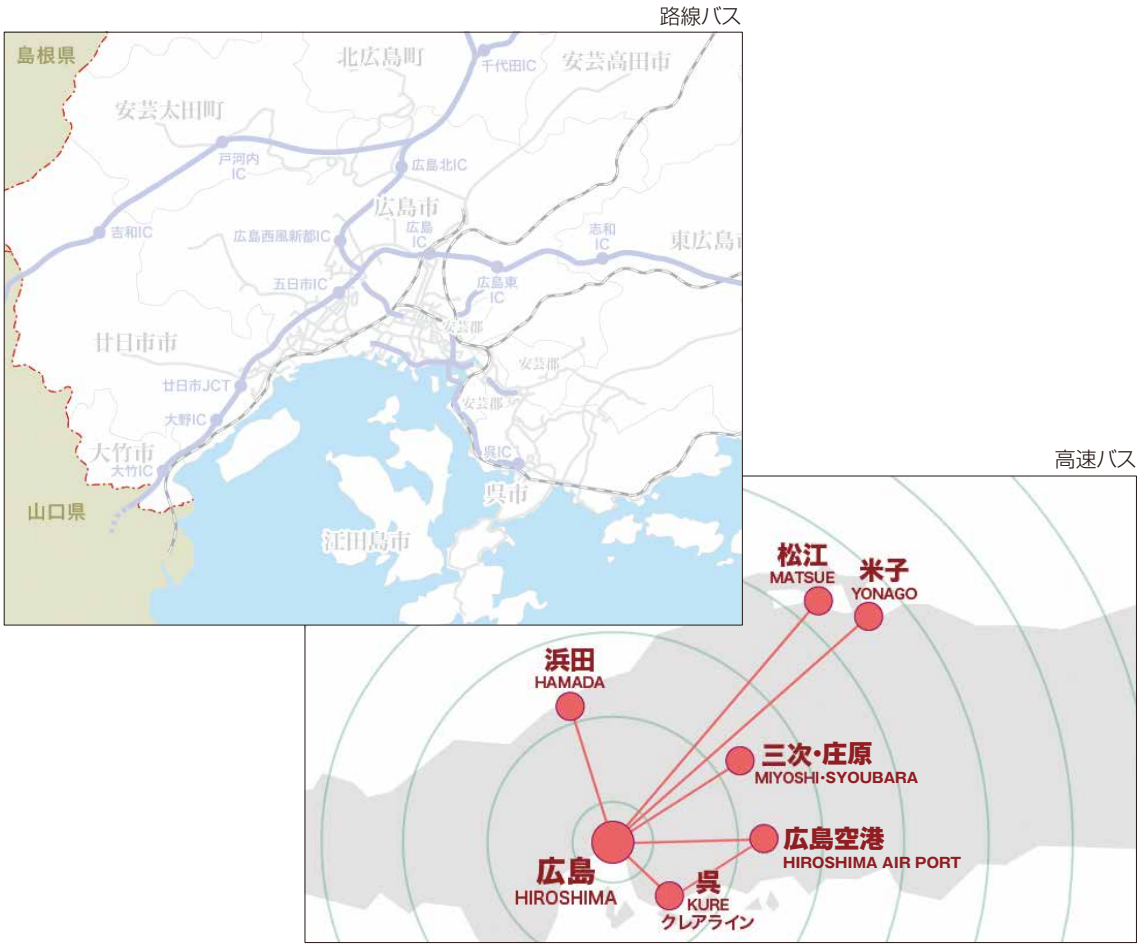
当社のバス部門は、広島県西部地域を営業基盤として乗合バス事業を展開しており、広島市、呉市、廿日市市を中心に周辺市町に至る路線ネットワークを持っています。また、広島と山陰の主要都市（米子、松江、浜田）を結ぶ陰陽連絡線や空港リムジンバス等の高速乗合バスも運行しています。車両数544両、総系統数383系統、営業キロ1,333.8kmにおよび、1日平均8万人のお客様にご利用いただいています。（2021（令和3）年3月末現在）

1938（昭和13）年2月に当社の前身、広島瓦斯電軌（株）が広島乗合自動車（株）を吸収合併し、自動車部を創設しました。「広島電鉄（株）」として1943（昭和18）年4月には太田自動車（株）などバス事業者8社を統合し、今日の営業基盤を確立しました。バス部門は、高度成長期には大きな成長を遂げましたが、マイカーが急速に普及した1970年頃より収支は悪化の一途を辿り、一時期その存続さえ危ぶまれた時期もありました。そのような状況の中、営業所の管理体制や、徹底した計数管理に基づく運行ダイヤの見直し、人件費などのコスト削減、不採算部門の整理など、労使が一体となって実施した様々な収支改善策により、2003（平成15）年に黒字へ転換することができました。

現在、当社では、安定した収益を継続して確保しながら、「利用者にとってわかりやすく使いやすい持続可能な公共交通体系の構築」の実現を目指すとともに、ノンステップバスやハイブリッドバスなどバリアフリーや環境に配慮した車両の導入を引き続き推進しています。

2015（平成27）年3月よりバスロケーションシステム「くるけん」を在広7社共同で導入し、利用者へのリアルタイムな情報提供が可能となりました。また、訪日外国人旅行客の増加により、広島県バス協会の運営のもと、2016（平成28）年3月には広島駅南口に交通案内所が設置され、当社としても積極的に参加しています。2017（平成29）年11月より広島市内中心部において「バス180円均一運賃エリア」を新設し、2018（平成30）年5月には広島市都心循環バス「エキまちループ」の運行を開始するとともに、異なる事業者のバスでも重複する区間であれば相互に乗車可能となる共通定期券制度を導入しています。

また、2020（令和2）年1月より、都市循環線「まちのわループ」の運行開始に合わせて当路線の運行エリアまで均一運賃エリアを拡大するとともに、運賃を190円均一に変更しました。



●運　賃

乗合バスの運賃は、特殊区間制と対キロ区間制により計算しています。

1.現行運賃

2019(令和元)年9月5日認可、
2019(令和元)年10月1日実施

2.特殊区間制(広島市中心部)

1区190円、2区210円、3区230円、4区240円、5区250円、6区260円、7区270円

3.対キロ区間制

運賃率1キロメートル当り38円90銭
最低運賃170円

4.乗車券の種類

(1)定期乗車券

通勤　1か月 30%割引
　　3か月 1か月定期額の3倍の5%引き
　　6か月 1か月定期額の6倍の10%引き
通学　1か月 40%割引
　　ほか3か月、6か月、学期定期あり
他、ボンバスとの乗継定期を発売中

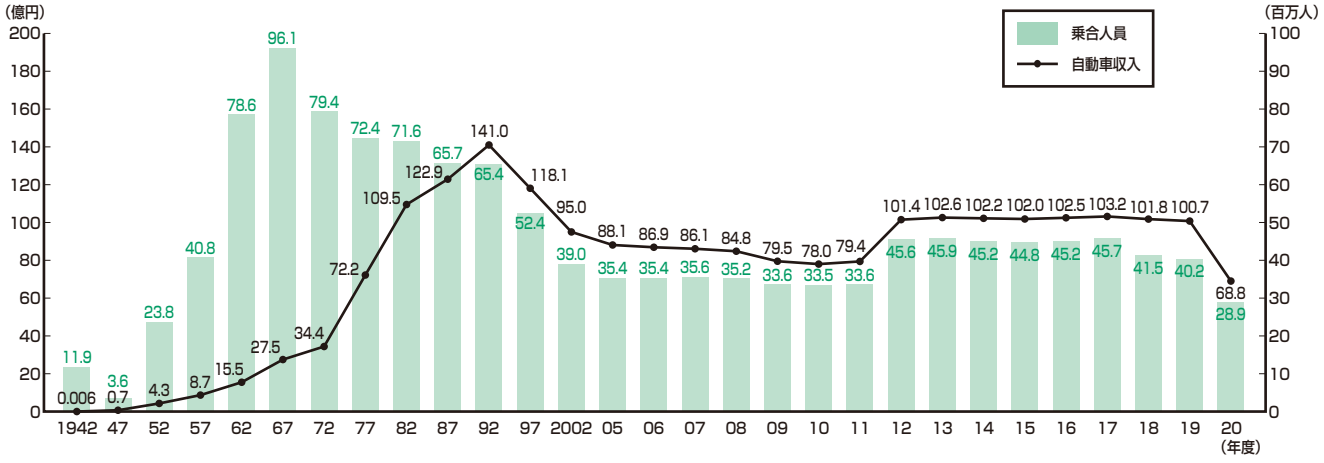
(2)ICカード「PASPY」

発売額　2,000円から
　　(デポジット500円を含む)
割　引　運賃に対して最大1割引

(3)割引運賃

身体障害者割引 知的障害者割引 精神障害者割引 児童福祉法適用割引 (介護人割引)	普通運賃の5割引、回数乗車券額の5割引、定期乗車券額の3割引(大人)
乗継割引	PASPYを利用してバスとバス・電車との乗り継ぎは、大人20円引き、小児・障害者等10円引き。(1時間以内で1回乗り継ぐ場合に限る)
直通乗継割引	PASPYを利用して特定の停留所で乗継時直通利用と同額運賃で利用可(1時間以内で1回乗り継ぐ場合に限る)

■輸送人員・旅客収入の推移



●各種サービスの向上

ICカード乗車券「PASPY」

PASPY

2008（平成20）年1月に広島県内の交通事業者10社局と共同で交通系ICカード乗車券「PASPY」を導入しました。PASPYは、カードリーダにタッチするだけで利用でき、電車、バス車内、定期券窓口、自動チャージ機や一部のATMでチャージ（入金）することでカードを繰り返し利用可能な、早くて簡単、また環境にも優しい乗車券です。当社を含む県内の主要バス事業者のほか、広電電車やアストラムライン、宮島松大汽船、宮島ロープウエーなど複数の交通モードで共通使用できるカードとして、現在では全32事業者で利用可能となりました。また、2018（平成30）年3月には、全国相互利用サービスの導入により、既に利用可能だったICOCAに加えて、全国相互利用カード（10カード）も利用可能になりました。

バリアフリー車両の導入

1997（平成9）年頃から、本格的な量産大型ノンステップバスが販売され始めたものの、広島市と同規模の都市ではまだ導入に至らない中、広島県では初となるノンステップバス8両を導入しました。交通バリアフリーに関する法令が整備され、公共交通事業者にもバリアフリー化の推進が求められるようになり、低床車両は、お年寄りや車椅子・ベビーカーのご利用者はもとより、健常者のお客様にとっても乗降が容易であり、引き続き低床車両の導入を進めていきます。なお、2021（令和3）年3月末現在の低床車両の保有台数は、ノンステップバス309両、ワンステップバス160両の469両であり、低床化率が85%を超える水準に至っています。

また、2006（平成18）年からは、お客様の安全性と乗り心地を高めたハイバックシートや、視認性を高めた配色の手すり（握り棒）など、当社独自仕様の設備を順次採用し、お客様により安全で快適にご乗車いただけるよう、車両のサービスレベルの向上にも工夫を重ねています。

エコドライブ運動と低公害バスの導入

自動車NOX・PM法の制定など、環境問題に対する社会的要請の高まりとともに、首都圏ではバス事業におけるPMの削減目標を立てており、環境に優しい車両の導入が大きな責務となる中、当社では、1997（平成9）年以降に購入した車両からアイドリングストップ装置を装着しています。また、1998（平成10）年度からは、燃料消費量の削減により、CO_2と排気ガスの排出量を低減する「エコドライブ運動」に取り組んでいるほか、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づく「環境行動計画」を策定し、環境保全のための仕組み・体制づくりを行い、省燃費運転講習会や社員教育を通じて環境対策の強化に取り組んでいます。

同時に、低公害車両の導入も積極的に進めており、2006（平成18）年から導入を開始したCNGバスは、2021（令和3）年3月末現在35両、2010（平成22）年から導入を開始したハイブリッドバスは、現在37両が在籍しています。

大型ノンステップハイブリッドバス（2014（平成26）年から導入）

環境定期券制度の導入

環境保全対策の一環として、公共交通利用促進のために1999（平成11）年1月より環境定期券制度を導入しました。

当社バス通勤定期券をお持ちの方と、同伴する同居のご家族を対象に、土曜日、日祝日に当社バス全区間（高速バス、催事輸送バスを除く）を1乗車毎に100円均一でご利用いただくことができます。

2018（平成30）年5月より当社以外のバス通勤定期券（PASPY定期券発行事業者）においても、当社バス定期区間外利用時に環境定期券制度を適用しており、7月より「バスに乗れば"ステキ"が待ってます」という意味を込め「のれバスて～き」に名称変更しました。

情報提供サービスの充実化

時刻表検索サイト「バスゲート」や「Google乗換案内」、「Yahoo!路線情報」、「NAVITIME」、「駅すぱあと」、「ジョルダン乗換案内」でのサービスを開始し、時刻・運賃・所要時間・乗換情報を提供しています。

2015（平成27）年3月より広島県内の交通事業者7社共同で、一部路線においてバスロケーションシステム「くるけん」を導入しました。パソコンやスマートフォンから専用サイトを通じて乗車したいバスの接近情報がいつでも見られるほか、パソコンやスマートフォンをお持ちでないお客様のために、ご利用の多い「広島駅」や「八丁堀」、「本通り」などの主要バス停留所へ案内表示機を設置し、「バスはいつ来るか分からない」といった不安の解消に努めています。

●高速バス

当社の都市間高速バスは、米子･松江･浜田など山陰地区の各都市と広島市を結ぶ陰陽連絡高速バスを主力とする他、呉市や三次市･庄原市など県内主要都市までの近距離高速バスを運行しています。

2003（平成15）年9月からは、全国規模の高速バス予約ネットワーク「発車オーライネット」を導入し、パソコンやスマートフォンから、高速バスの座席をご予約いただけるだけでなく、コンビニエンスストアでの乗車券購入サービスも実施しており、情報端末機が設置されている各店舗で乗車券をお求めになれます。

2020（令和2）年5月11日より、「三次庄原線」の一部便を広島駅北口発着に変更し、利便性の向上を図っています。

●空港リムジンバス

広島都市圏のバス会社5社が共同で、広島市中心部の交通拠点である広島駅（新幹線口）、または広島バスセンターから広島空港まで約50～55分で結ぶ空港リムジンバスを運行しています。

また、2013(平成25)年3月から平和大通り線の運行開始、さらに同年7月からは、呉駅前･クレイトンベイホテルと広島空港を結ぶエアポートバス「呉広島空港線」の運行を当社が担当しています。

いずれの路線も、広島空港への直行アクセスとして重要な役割を担っています。

●バス路線再編への取り組み

2018（平成30）年3月に国土交通大臣より認定を受けた広島市地域公共交通再編実施計画（第1版）に基づき、5月より、広島市中心部において、広島市都心循環バス「エキまちループ」を、広島バス（株）と共同で運行開始しました。

また、2020（令和2）年1月には、広島市中心部の基幹病院･大学･大規模商業施設を連絡する循環バス「まちのわループ」を広島バス（株）･広島交通（株）と共同で運行開始しました。

2019（平成31）年1月には、廿日市市中山間地域において、待合施設、バスロケーションシステムを兼ね揃えた乗継拠点を整備し、吉和、玖島方面の支線を廿日市市自主運行バスに移管し、2019年10月には、呉エリアにおいて一部支線を自主運行バスに移管しました。ました。今後も市内中心部から郊外部の交通結節点までの基幹バスと、郊外から周辺団地や中山間地域への支線バスに役割を分担することで、分かりやすく無駄のない効率的な運行をめざします。

●バス車両管理

当社では、安全で快適なバス運行確保のため、用途、年式、車種別等、車両の特性を十分把握し、車両個別管理のもと、整備業務を委託している（株）ウィング広島と共同で、点検整備を計画・実施しています。

バスの定期点検「1か月点検」「1.5か月点検」「3か月点検」「高速15日点検」および各種臨時整備については、バス営業所併設の認証工場で実施しています。

●臨時輸送･イベント輸送

当社バス沿線で開催される祭り、花火大会等のイベントや、Jリーグの試合、学校の入学試験等に合わせて、JR駅等の主要結節点から会場までを直行で結ぶシャトルバスを運行。また、通常の運行便を増便する等の対応を行っています。

公共交通事業者として、地域に根ざしたイベント･行事の運営をサポートするため、関係者との入念な打合せと計画立案によって、多数のお客様に安全かつスムーズに移動していただくことができるよう努めています。

交通広告事業

●交通広告事業の概要

交通広告は、お客様や住民の目を楽しませながら、地域と密着した情報源として優れた広告媒体です。

当社が運行する電車・バスの路線は、広島市内・呉市内をはじめ広島県の北部・西部を網羅し、1日約19万人の方にご利用いただき、当社の交通広告は広島都市圏での効果的なプロモーションができることから、多くのクライアントにご利用いただいています。

また、交通広告による収入は、電車・バスをご利用のお客様に少しでも安い運賃でご利用いただけるよう、コストダウンにも一役買っています。

電車1000形 部分ラッピング車両

■電車広告

中吊ポスター・キャンペーン電車・正面額・内側・部分ラッピング・フルラッピング・宮島線駅ポスター・宮島線駅額看板・宮島線駅電照看板 等

■バス広告

ポスター・正面額・内側・ガラス貼ステッカー・後部ステッカー・外側・大型外側・部分ラッピング・フルラッピング 等

■本社・各事業所所在地

2020（令和2）年8月1日現在

事業所	郵便番号	所在地	電話番号
本社	〒730-8610	広島県広島市中区東千田町二丁目9番29号	082-242-3521
広電電車バステレホンセンター	―	―	0570-550-700
電車事業本部			
千田営業課	〒730-8610	広島県広島市中区東千田町二丁目9番29号	082-242-3555
江波出張所	〒730-0831	広島県広島市中区江波西一丁目24番59号	082-232-9823
西広島営業課	〒733-0863	広島県広島市西区草津南三丁目9番1号	082-276-1012
バス事業本部			
曙営業課	〒732-0045	広島県広島市東区曙一丁目7番1号	082-262-1982
仁保営業課	〒734-0057	広島県広島市南区仁保沖町1番92号	082-569-5050
江波営業課	〒730-0831	広島県広島市中区江波西一丁目24番59号	082-232-6455
広島南営業課	〒730-0005	広島県広島市中区西白島町24番9号	082-221-4385
西風新都営業課	〒731-5109	広島県広島市佐伯区石内北五丁目2番13号	082-941-5565
広島北営業課	〒733-0025	広島県広島市西区小河内町二丁目18番1号	082-231-5171
安佐出張所	〒731-1142	広島県広島市安佐北区安佐町大字飯室1576番地	082-835-1860
吉田出張所	〒731-0501	広島県安芸高田市吉田町吉田1824番地-2	0826-42-0339
呉中央営業課	〒737-0822	広島県呉市築地町2番8号	0823-36-2460
警固屋出張所	〒737-0012	広島県呉市警固屋四丁目9番1号	0823-20-2080
広出張所	〒737-0144	広島県呉市広白岳五丁目1番28号	0823-36-3160
焼山営業課	〒737-0911	広島県呉市焼山北三丁目1番12号	0823-36-2490
熊野出張所	〒731-4228	広島県安芸郡熊野町柿迫2番2号	082-854-0032
不動産事業本部			
本店	〒730-8610	広島県広島市中区東千田町二丁目9番29号	082-242-3502

不動産事業

広島の暮らしに潤いを

豊かな暮らしを応援し、笑顔を広げる。
それが私たちの目標です。

夢こそエネルギー。

不動産事業本部 分譲営業課　**杉本 翔馬**
（2019（令和元）年入社）

■担当業務

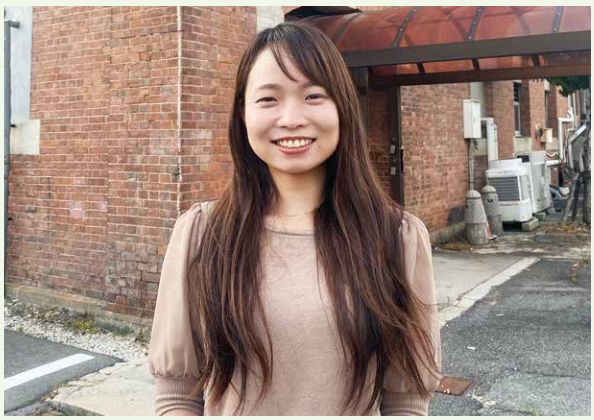
「西風新都グリーンフォートそらの」をはじめとする住宅地の販売や「hitoto 広島The Tower」、「ザ·府中レジデンス」などのマンション事業を担当する分譲営業課において、販売戦略の策定や住宅地等の運営管理業務、契約書類の作成、広告物の考案や物件ホームページの更新など不動産の販売に関わる仕事に携わっています。

■Staff Voice

日々の業務は一人で完結する仕事がほとんどなく、企業·人と連携して進める案件が大多数なので、「自分は何の役割を担うのか」、「どうすれば貢献できるのか」といったことを常々自分事化し、意識するようにしています。

「広島を暮らす人にとって居心地の良い街にしたい」という入社当初の気持ちを忘れないようにしていきたいです。

広島電鉄の不動産事業は、広島の街に変化を加える面白い仕事に多数取り組んでいますのでこれからも注目していただけたら幸いです。



多くの方に利用してもらえる施設を。

不動産事業本部　開発課　**西田 玲奈**
（2019（令和元）年入社）

■担当業務

不動産開発を推進する開発課において、社有地や老朽化物件の有効活用を検討しています。

これまで、観光商業施設「etto」や広場中心のコミュニティ施設「KOI PLACE」など、施設の企画立案から開業までの業務全般に携わりました。

■Staff Voice

開発課が担当する案件は数十年を要するものも多く、将来の需要を計画施設に反映させる必要があります。また、計画地で最適な不動産事業を行うには、マンションやオフィス、商業、インフラなど幅広い知識や経験が必要であるため、常に新しい情報を収集し、多角的な視野を持ち、業務に臨むことを意識しています。将来の利用風景を具体的に想像しながら計画を検討しており、実際に想像したように施設を利用される人を見たときは大きな達成感があります。多くの方に長く利用していただける施設づくりを進めていこうと思います。

●不動産賃貸事業の概要

まだ「オフィスビル」が珍しかった昭和30年代、当社は不動産賃貸事業の経営に乗り出しました。当初は子会社の広電不動産(株)に土地を賃貸して子会社が賃貸ビルを経営するという形態をとっていましたが、1988(昭和63)年に自社で「広電タワービル」を竣工し、当社所有ビルとしての賃貸事業を開始しました。これ以降、賃貸事業への設備投資を積極的に進め、堅実に収益を上げてきました。

2012(平成24)年2月、広島のビジネス・商業・交通の中心地である紙屋町交差点に面した約850坪という希少な土地に、「広島トランヴェールビルディング」を竣工しました。

2013(平成25)年4月には広電不動産(株)、2016(平成28)年4月には広電興産(株)を合併し、広電グループ全体で資産の有効活用を図るべく体制を整えました。この新しい体制で、老朽化した物件の建替えなど大型プロジェクトを推進しています。2017(平成29)年11月、日本生命保険相互会社との共同事業として、広島市中区八丁堀に新たな複合オフィスビル「スタートラム広島」が竣工しました。

賃貸ビル以外にも、電車・バス路線沿線の所有地を、食品スーパー、ボウリング場、レストラン、競艇場などに賃貸し、資産の有効活用を図っています。

また、コミュニティ施設「KOI PLACE(コイプレ)」や宮島口の観光商業施設「etto(エット)」を開発するなど、賃貸事業の多様化を進めています。

●賃貸事業施設の紹介

広島トランヴェールビルディング

広島の中心地紙屋町交差点に立地する複合用途ビルで、環境に配慮した設計を行っています。

●所 在 地／広島市中区紙屋町
一丁目2番22号
●開　　業／2012(平成24)年2月
●敷地面積／2,804m²
●延床面積／29,000m²
●構造・規模／地上14階地下2階
塔屋2階建
●内　　容／地下1階～3階：銀行・商業店舗
4～14階：貸事務所
駐車場183台(身障者用3台含む)
駐輪場204台

スタートラム広島

ビジネス・商業の中心部、八丁堀に立地し、地上16階、高さ80メートルという当エリアを代表するビルとなりました。

●所 在 地／広島市中区八丁堀
16番11号
●開　　業／2017(平成29)年11月
●敷地面積／2,577m²
●延床面積／26,100m²
●構造・規模／地上16階
●駐 車 場／130台
●内　　容／1、2階：商業店舗
3～16階：貸事務所
駐車場132台
駐輪場53台

KOI PLACE(コイプレ)

広電西広島停留場に隣接し、芝生広場やコミュニティ施設と飲食店舗で構成され、西広島エリアに憩い・くつろぎ・交流する場を創出しています。

●所 在 地／広島市西区
己斐本町一丁目
18番3号
●開　　業／2020(令和2)年
2月
●敷地面積／1,200m²
●内　　容／芝生広場・
コミュニティ施設(貸切利用可)
飲食5店舗

etto(エット)

宮島口旅客ターミナルに隣接する観光商業施設。広島・瀬戸内グルメの飲食と、土産・雑貨などのショッピングが楽しめる店舗が出店しています。

●所 在 地／廿日市市
宮島口一丁目
11番8号
●開　　業／2020(令和2)年
4月
●敷地面積／1,000m²
●延床面積／1,600m²
●構造・規模／地上2階
●内　　容／1階：食物販・土産雑貨 12店舗
2階：飲食 4店舗

広電三井住友海上ビル

付近のランドマークとなっています。

●所 在 地／広島市中区西十日市町9番9号
●開　　業／1992(平成4)年3月
●敷地面積／2,445m²
●延床面積／16,474m²
●構造·規模／地上14階 地下1階 塔屋1階建
●内　　容／貸事務所·駐車場

広電タワービル

環境の良い東千田町に立地するテナントビルです。

●所 在 地／広島市中区東千田町二丁目9番57号
●開　　業／1988(昭和63)年3月
●敷地面積／2,741m²
●延床面積／3,718m²
●構造·規模／地上5階建
●内　　容／貸事務所

広電本社ビル

一般テナントも入居する、当社の本社ビルです。

●所 在 地／広島市中区東千田町二丁目9番29号
●開　　業／1994(平成6)年8月
●敷地面積／2,235m²
●延床面積／6,579m²
●構造·規模／地上10階 地下1階 塔屋1階建
●内　　容／貸事務所·会議室·本社事務室

広電楽々園駅ビル

広電楽々園駅前に立地する総合ビルです。

●所 在 地／広島市佐伯区楽々園二丁目2番2号
●開　　業／1986(昭和61)年3月
●敷地面積／730m²
●延床面積／2,638m²
●構造·規模／地上4階建
●内　　容／商業店·貸事務所

●不動産開発事業の概要

戦前から、当社の前身である広島瓦斯電軌㈱が主として宮島線沿線の開発を手がけてきました。戦後は1955(昭和30)年にグループ会社を通して佐伯区藤垂園の造成を実施し、広島市近郊における優良な住宅宅地の供給をいち早く開始しています。広島市が急速に拡大発展を遂げる中、深刻な住宅不足を解消するため、1969(昭和44)年7月、新たに「不動産部」を設置し、観音台·月見台·翠光台·毘沙門台·広電己斐団地など数多くの大型住宅地を開発してまいりました。

近年では市街地での宅地開発も手掛けており、2009(平成21)年には広島市南区宇品御幸において「宇品グリーンアヴェニュー御幸の杜」宅地63区画と商業施設用地1区画を造成、宅地は全区画を販売し、商業施設用地には地元スーパーを誘致しました。また、2015(平成27)年、ひろしま西風新都の中で「西風新都グリーンフォートそらの」が竣工し、商業施設·業務施設·流通施設·住宅施設が調和した魅力ある街づくりをめざしています。

マンション事業は、1975(昭和50)年に「楽々園マンション」43戸を分譲したことに始まり、以降、立地条件を最大限に生かした様々な商品の提供に努めてきました。直近の実績としては、2020(令和2)年に「hitoto広島The Tower」を、2021(令和3)年に「ザ·府中レジデンス」を分譲しました。

●まちづくりの紹介

■毘沙門台

「毘沙門台」は、広島市北部の南向き丘陵地で当社の代表的な分譲地となっています。1972(昭和47)年8月に「毘沙門台第1期」として開発以来、1987(昭和62)年11月の「毘沙門台第3期」まで継続的に開発を行ってきました。

第1期からの開発面積は111haにおよび、計画戸数2,465戸·計画人口9,700人と広島市近郊を代表する大型住宅団地として知られています。スーパー·クリニック·各種店舗が営業する商店街もあり、小学校の開校(1980(昭和55)年)、高等学校の開校(1975(昭和50)年)と教育施設も充実し、緑につつまれた成熟した街を形成しています。さらに1994(平成6)年8月には「アストラムライン」の『毘沙門台駅』が団地入口に開業し、住環境も一段と向上しています。

毘沙門台全景

■宇品グリーンアヴェニュー御幸の杜

「宇品グリーンアヴェニュー御幸の杜」は、市街地では希少な、約6,000坪という広大な平地を開発し、2012(平成24)年に竣工しました。63区画の分譲宅地の中に地域密着型のスーパーを誘致し、便利で快適な住空間を提供しています。

宇品グリーンアヴェニュー御幸の杜

■西風新都グリーンフォートそらの

西風新都グリーンフォートそらのは、「住む、働く、学ぶ、憩う、護る」の複合機能を集積した拠点の形成を図る「ひろしま西風新都」内において、五日市インターチェンジに近接し、都市計画道路草津沼田線と石内中央線の交差部に隣接するという立地特性を活かし、住宅系の土地利用の他、商業・業務系や工業・流通系の複合的な土地利用を図るという方針に基づき、これらが調和した魅力ある街づくりをめざしています。なお、土地利用計画のメインとなる商業用地（一部）には、2018（平成30）年4月に大型商業施設「ジ アウトレット広島」が開業、業務用地（一部）には2017（平成29）年4月に日本郵便（株）などが業務をスタートしました。現在、住宅用地を分譲中です。

西風新都グリーンフォートそらの住宅用地

●マンションの紹介

■広島大学本部跡地「hitoto広島」

「hitoto広島」は、広島市中区東千田町に位置する広島大学本部跡地の有効活用を図ることを目的とした事業です。2013（平成25）年12月、三菱地所レジデンス（株）（代表企業）、三井不動産レジデンシャル（株）、広島菱重興産（株）、（株）トータテ都市開発、社会福祉法人広島常光福祉会、三井住友ファイナンス&リース（株）、広島トヨペット（株）と当社の8社は、事業予定者募集に応募し、広島市および国立大学法人広島大学より事業者に選定されました。

現在は、医療法人翠清会も事業者に加わり、9者で事業を行ってまいります。本件事業は、「分譲マンション」「学生・留学生向け賃貸マンション」「シニア向け住宅」「スポーツクラブ」「病院」「カーディーラー」の構成となっており、当社は「分譲マンション」および「学生・留学生向け賃貸マンション」に参画しております。

賃貸マンション「hitoto広島ナレッジスクエア」は、2017（平成29）年3月に、分譲マンション「hitoto広島 The Tower」はフロア数53階で中四国九州一となり、2020（令和2）年4月に建物竣工しました。

hitoto広島 The Tower

■ザ・府中レジデンス

「ザ・府中レジデンス」は、イオンモール広島府中に隣接し、JR「天神川」駅まで徒歩5分の魅力的な立地となっています。

15階建て総戸数172戸で、2021（令和3）年3月に建物竣工、同5月に購入者への引渡しを行っております。

ザ・府中レジデンス

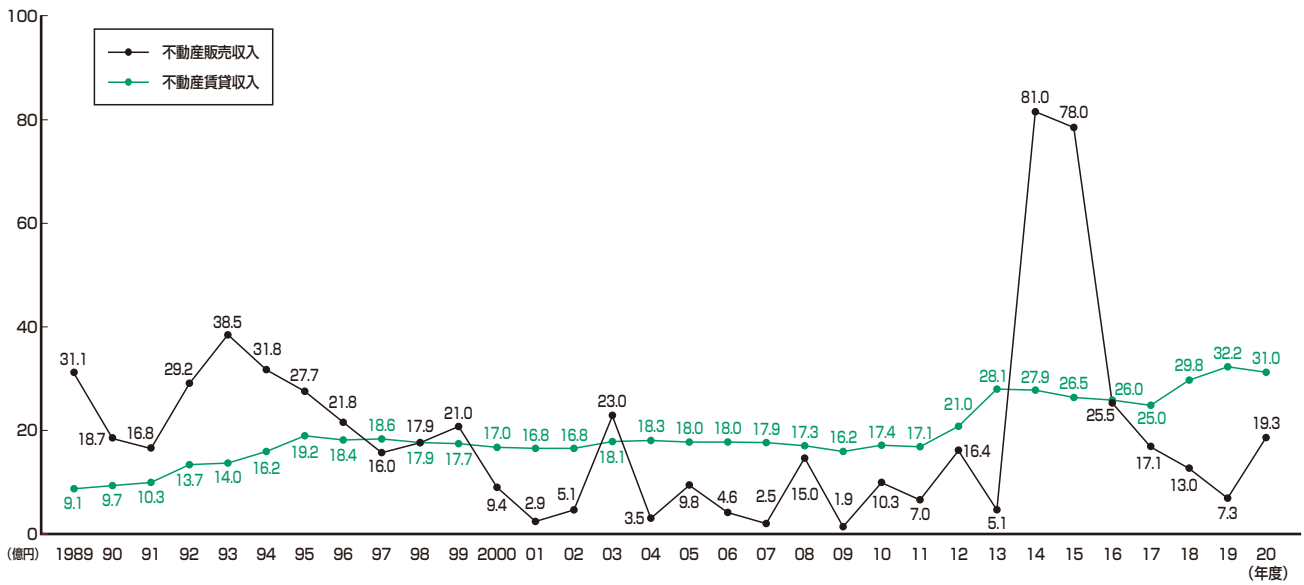
■主要住宅地一覧

住宅地名	開発総面積(ha)	区画数	開発期間	備　　考
観音台	18.5	553	1970～1971(昭和45～46)年	
月見台第1期	4.3	188	1970～1971(昭和45～46)年	
翠光台	35.4	956	1971～1973(昭和46～48)年	
毘沙門台第1期	50.4	1,052	1972～1976(昭和47～51)年	
毘沙門台第2期	37.6	918	1976～1979(昭和51～54)年	
広電己斐団地	12.4	398	1976～1979(昭和51～54)年	
月見台第2期	6.4	182	1981～1983(昭和56～58)年	
東観音台	46.6	1,297		1986(昭和61)年9月 224区画完成宅地を購入
アメニティタウン仁保南	21.2	606		1991(平成 3)年5月 127区画完成宅地を購入
毘沙門台第3期	22.9	495	1987～1992(昭和62～平成4)年	
宇品グリーンアヴェニュー御幸の杜	2.0	63	2010(平成22年)	
西風新都グリーンフォートそらの	70.2	複合団地、住宅243区画	2011～2015(平成23～27)年	

■マンション一覧

マンション名	所在地	戸数	完成年月日
楽々園マンション	広島市佐伯区	43	1975(昭和50)年 3月
ビューハイツ己斐上	広島市西区	24	1989(平成 1)年 9月
グランソシエ五日市	広島市佐伯区	147	1999(平成11)年 8月
アーバンビュー翠	広島市南区	94	2003(平成15)年11月
エレンシーレ宮島	廿日市市	73	2006(平成18)年 3月
アライヴコート西条	東広島市	43	2008(平成20)年 5月
アンヴェール比治山公園	広島市南区	37	2013(平成25)年 3月
アンヴェール五日市駅前	広島市佐伯区	44	2015(平成27)年 9月
アンヴェール庚午中グランツ	広島市西区	21	2017(平成29)年 9月
hitoto 広島 The Tower	広島市中区	665	2020(令和 2)年 4月
ザ・府中レジデンス	安芸郡府中町	172	2021(令和 3)年 3月

●不動産販売収入と賃貸収入の推移



環境への取り組み

当社では、人と環境にやさしい企業を目指すという意識のもと、
全社を挙げて環境負荷の軽減に取り組んでいます。

●鉄・軌道事業における取り組み

当社の車両の多くに、エネルギー効率のよいVVVFインバータ制御方式を採用することにより、省エネルギー化に寄与しています。

また、電車がブレーキをかけた際にモーターを発電機として作動させ、発生した電気を架線に戻すことで他の電車が使えるようにする回生ブレーキシステムも多くの車両で採用し、電気の再利用を行っています。

VVVFインバータ制御方式

VVVF(Variable Voltage Variable Frequency:可変電圧可変周波数)インバータ制御装置は、電車の加速力や速度に応じて電圧や周波数を変化させながら交流モーターを動かす制御装置です。これにより、電気抵抗を使わずにモーターの回転数を効率よく制御することができます。

新幹線や他社の鉄道事業者でも多数導入されており、当社では800形(更新車)、1000形、3800形、3900形、3950形、5000形、5100形、5200形の各車両で採用しています。

5200形

●自動車事業における取り組み

バス事業本部においては、環境保全方針を定め、全事業所で環境負荷の軽減に努める取り組みを推進しています。

■グリーン経営認証

当社は、2005(平成17)年度に広島県内の旅客自動車運送事業として初めての「グリーン経営認証」を取得しています。

グリーン経営認証制度

グリーン経営マニュアルに基づいて一定レベル以上の取り組みを行っている事業者に対して、交通エコロジー・モビリティー財団が審査のうえ認証・登録を行うもので、事業者の環境改善の努力を客観的に証明することにより取組意欲の向上を図り、運輸業界における環境負荷の低減につなげようとする制度です。

認証ロゴマーク

■環境に配慮した車両の導入

環境保全に配慮した車両へ転換するため、ハイブリッドバス等の低公害車両や最新の排ガス規制適合車を導入しています。

新型ハイブリッド車両

■エコドライブ運動

1998(平成10)年度から地球環境保護のため、「エコドライブ運動」を実施しており、燃料消費量を削減し、CO_2と排気ガスの排出量を低減する運動を実施しています。

●不動産事業における取り組み

2012(平成24)年2月17日に竣工した複合用途ビル「広島トランヴェールビルディング」では、環境への取り組みとして、高遮熱断熱Low-E複層ガラス、日除けルーバーを採用し、直射日光を遮ることによる熱負荷の低減や、共用部にLED照明や人感センサー付照明、専用部には灯数切り替え型照明・自然調光が可能な照明システムを採用するなど、消費電力の低減に配慮した設計を行っています。

また、2017(平成29)年11月30日に竣工した日本生命保険相互会社と共同で建設した複合オフィスビル「スタートラム広島」においても、高効率熱源機器や高遮断熱Low-e複層ガラス、全館LEDなどの様々なエコロジー機能を採用しています。

輸送の安全への取り組み

当社では、輸送の安全の確保が最も重要であるという意識のもと、安全管理体制の構築と改善に全社を挙げて取り組んでいます。

●鉄・軌道事業

■安全管理体制

2005（平成17）年に全国で連続して発生した事故・トラブルを契機に導入された「運輸安全マネジメント制度」に基づき、当社でも2006（平成18）年10月に「安全管理規程」を制定し、社長以下乗務員までが一体となって輸送の安全の確保を行うため、安全管理組織を構築・運用しています。

この組織の中で、鉄・軌道事業においては、安全統括管理者・運転管理者・電気管理者・線路管理者・車両管理者・乗務員指導管理者が、それぞれの責務を明確にした上で安全確保の役割を担っています。

軌道線乗務員訓練シミュレーターによる訓練

■安全目標2021（令和3）年度

社内に安全風土、安全文化を構築・確立させ、安全最優先を原則とし、関係法令等の遵守を徹底するため、次のとおり「安全目標」を掲げて様々な安全性向上に資する施策に取り組んでいます。

- ●重大責任事故・重大インシデントをゼロにする
- ●車内転倒負傷事故、扉開閉時の負傷事故をゼロにする
- ●係員・車両・施設に起因する輸送障害事故をゼロにする

■乗務員教育

乗務員を対象に、座学による安全運転を行う上での基本動作の徹底と事故・故障時の実践訓練を行うとともに、地震・津波発生時の連絡通報訓練、避難誘導訓練などを行っています。また、外部との合同訓練として消防局との救助救出訓練や県警とのテロ対応訓練なども実施し、安全輸送に努めています。

消防局と合同での訓練

■施設の安全対策

設備関係においては、以前から計画的に設備の改修・補修を行っています。今後も施設の老朽化について調査し、計画的に老朽化施設の更新等を行うことで、輸送の安全確保に努めます。

車両関係においては、列車無線を2013（平成25）年度に全車両に設置し、異常時における適切な情報伝達が可能となり、二次災害の防止など安全輸送の向上に努めています。また、道路障害事故、車内転倒事故、車内トラブル等発生時の確認、検証、対策を目的として、運転状況記録装置とドライブレコーダーを、2016（平成28）年度中に全車両への設置が完了しています。

踏切道重レール化工事

運転状況記録装置本体

ドライブレコーダー映像

●自動車事業

■安全管理体制

2005（平成17）年に全国で連続して発生した事故・トラブルを契機に導入された「運輸安全マネジメント制度」に基づき、当社でも2006（平成18）年10月に「安全管理規程」を制定し、社長以下乗務員までが一体となって輸送の安全の確保を行うため、安全管理組織を構築・運用しています。

この組織の中で、自動車事業においては、安全統括管理者、運行管理者、整備管理者、その他必要な責任者が、それぞれの責務を明確にした上で安全確保の役割を担っています。

■安全目標2021（令和3）年度

輸送の安全に関する基本的な方針に基づき次のとおり目標を設定し、さらに目標達成のための具体的な方法を「安全運転5か条」として定め、様々な安全性向上に資する施策に取り組んでいます。

- ●有責重大事故をゼロにする。
- ●有責人傷事故を前年度比50%減とする。
- ●有責事故件数を80件以内とする。

達成のための具体的方法

安全運転5か条

- ●速度の抑制
- ●二輪車を追い越さない
- ●右左折時の一旦停車
- ●安全な車間距離を確保
- ●発車時の車内確認、確実な扉操作

■乗務員教育

定期的な集合教育に加えて、事業所単位で乗務員教育を行っています。また、最近はドライブレコーダーの映像記録を教材とし、グループおよび個別の指導教育を行っています。

雪道教育

■その他の安全対策

- ●老朽車両の計画的代替により、経年劣化による故障や事故のリスク回避を図っています。
- ●扉事故防止のため、安全装置の付いた扉開閉レバーを取り付けています。
- ●管理者がバスへの添乗や立哨を行い、「安全運転5か条」の実施状況をチェックしています。
- ●乗務員から報告される“ヒヤリハット情報”を各職場に掲示し、情報の共有を図っています。
- ●車内事故防止キャンペーンとして車内へマナーアップポスターを掲示するなど、お客様への啓発活動を実施しています。
- ●全ての交差点で左折時一旦停車して安全確認を実施しています。

新入社員（乗務員）への教育

車椅子接客研修

左折時一旦停止

交通政策分野への取り組み

「利用者にとってわかりやすく使いやすい持続可能な公共交通体系の構築」
の実現に向けて取り組んでいます。

●新たな交通システムの構築

■AIオンデマンド交通「SMART MOVER（スマートムーバー）」の運行開始

2021年2月1日から、当社、株式会社NTTドコモおよび、ひろでんモビリティサービス株式会社は、新たな交通システムとして、AIオンデマンド交通「SMART MOVER（スマートムーバー）」を五日市湾岸地区で運行開始しました。本事業は、ひろでんモビリティサービスが運行を行い、NTTドコモのオンデマンド乗合交通システム「AI運行バス」を活用しています。

AIオンデマンド交通とは、AIを活用した効率的な配車により、利用者予約に対し、リアルタイムに最適配車を行う交通システムです。需要に応じて配車されるので、お客様は時刻表などを気にせず、いつでも気軽に利用できます。時刻表も運行ルートも決まっておらず、利用者の移動需要に最も効率的に対応できる送迎順で、必要な乗降ポイント間を走行することができるため、定時・定路線の循環バスなどに比べ、利用のない区間の走行が不要になるなどの効率化も見込めます。

当社では、お客様の利便性と事業の効率性の両立を図り、路線のネットワークを確保するため、将来にわたって持続可能な新たな交通システムの構築を目指しています。

SMART MOVER（スマートムーバー）

●MaaSへの取り組みについて

■デジタルチケットサービス MOBIRY（モビリー）の導入

当社と日本電気株式会社（NEC）は、利用客の利便性向上や観光振興による都市活性化を目的としたMaaS※の実現に向け、2019年9月より共同研究を開始しました。

広島都市圏のMaaSの構築に向けたサービス第1弾としてスマートフォンで乗車券を購入・使用が可能な「MOBIRYデジタルチケットサービス」を2020年3月10日にサービスインしました。

また、2021年2月には、経路検索機能、シェアサイクルとの連携、韓国語、中国語（簡体字・繁体字）などの多言語機能の実装を行いました。

今後は、MaaSのさらなる充実化を目指し、MICE※とMOBIRYの連携を行い、MICEを起点とした広島観光への誘客として、MICE事務局と連携した広島周遊チケットの販売を行うことにより、広島に来訪したMICE参加者の周遊観光者の量的増加、滞在期間の延長・消費拡大など、観光関連部門を中心とした経済波及効果の最大化を図ります。

他にも、観光施設の入館、イベントチケット、防災情報との連携等の機能を追加することで、「公共交通で周遊しやすいまちづくり」を進めてまいります。

MOBIRY

※MaaS（マース:Mobility as a Service）:マイカー以外のすべての交通手段を1つのサービスとしてとらえ、検索から予約、決済まで利用者に提供する「移動サービス」の概念。

※MICE（マイス）:Meeting（会議・研修・セミナー）、Incentive（企業報奨・研修旅行）、Convention（国際会議・学術会議）、Exhibition または Event（展示会・見本市・イベント）の4つの頭文字を合わせた言葉で、多数の集客・移動を伴うビジネスイベントなどの総称。

働きやすい環境づくりへの取り組み

少子高齢化が進展し労働力不足が叫ばれる中、当社においては、男女問わず若手からベテランまで社員全員が力を発揮できるよう、さまざまな取り組みを行っております。

●女性活躍推進

お客様の半数は女性であり、より良いサービスを提供していくには、女性の力が欠かせません。働きやすい職場づくりのため、女性用のトイレや休憩室等の整備を積極的に行っています。

また、2014（平成26）年には、社内に女性社員で構成する「Ring! Ring! プロジェクト」を立ち上げ、職場環境の整備や自社商品のサービス向上に女性の声を反映させる取り組みを行っています。女性社員を中心に異業種交流や勉強会も開催しており、女性のキャリア形成を進めています。

2021（令和3）年3月末現在、女性従業員数は全体の約7%となっており、係長以上に限ると8.3%となっています。

Ring!Ring!プロジェクト テーブルマナー講習会

●多様な働き方の推進

2017（平成29）年9月に、育児や介護をはじめ、年齢や健康状態など従業員のライフスタイルに応じて労働時間を柔軟に選択できる「短時間正社員制度」を導入しました。

この取り組みが評価され、広島県商工会議所連合会および広島県商工会連合会より、「第1回広島県働き方改革実践企業」に認定されました。今後、従業員の一層の定着だけでなく、「短時間でも働きたい」という人材の採用をめざし、多様なライフスタイルでも働きやすいようなシフトの構築に取組んでいきます。

2021（令和3）年3月末現在では、51名が短時間正社員として活躍しています。うち8名は子育て中の社員であり、仕事と子育ての両立にも寄与しています。

2017年度 広島県商工会議所連合会認定

また、短時間正社員制度の導入に合わせ、シニア社員制度の拡充を行い、健康であれば70歳まで働けるようにしました。65歳以上の運転士は2年に1度、人間ドック、脳·心疾患検査を実施するなど、健康管理体制を充実させました。

今後も、個人の属性や環境に関わらず、多様な人材を受け入れ、柔軟な働き方ができる職場づくりを行っていきます。

●育児休職等の制度の整備

当社では、育児休業が法制化される以前の1988（昭和63）年に、「育児休職制度」を導入するなど、早くから育児支援に取り組んできました。2005（平成17）年10月には、厚生労働省の「ファミリー·フレンドリー企業表彰」の広島労働局長賞を受賞しています。育児休職については、女性は取得率100%で、男性も年4人程度取得しております。現在の「育児休職制度」は、最長で子が3歳に達するまで取得できるものとしています。

また、仕事と育児の両立支援として、2019年（令和元）年12月から、満1歳に達するまでに年次有給休暇とは別に取得できる有給の育児目的休暇制度（年5日）を導入したほか、2021（令和3）年1月からは、事務·技術職場においては有給の子の看護休暇を1時間単位で取得可能としました。

●企業内保育施設「ひろでんまめっこ保育園」の開設

ひろでんまめっこ保育園

育児中の社員が安心して働き続けられる企業を目指し、2018（平成30）年4月、本社近隣に企業内保育施設「ひろでんまめっこ保育園」を新設しました。企業内に保育施設を設置することで、育児中の社員が自分のキャリア形成を主体的に考えることができるようになるとともに、男性社員も育児に参加しやすくなることから、労働力の確保に繋がるものと考えています。

●健康経営優良法人への認定

当社は、経済産業省および日本健康会議より「健康経営優良法人」に認定されました。従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる法人として認定されたもので、当社はお客様に「安全·安心」な運行を確保する企業として、定期的に人間ドック、脳·心疾患検査を実施するなど健康管理の徹底を図っております。今後も、快適な職場環境の整備に積極的に取り組み、心身ともに健康で活気ある職場づくりを推進します。

地域社会との共創

当社は、広島の人・街・未来に貢献し、皆様とともに、安全で快適に暮らせる街づくりに取り組んでいます。

●地域の文化・スポーツの振興

■茶寮「千鐘亭」の一般公開

広島が誇る貴重な伝統文化を多くの方に触れていただくため、広電本社ビル1階において、上田宗箇上屋敷の茶室「遠鐘」「鎖の間」を再現展示した茶寮「千鐘亭」を一般公開しています。

茶室の概要

上田宗箇生誕450年を記念して、松屋銀座およびひろしま美術館にて開催された「上田宗箇　武将茶人の世界展」において復元展示された上田家上屋敷の茶室「遠鐘」と「鎖の間」を、当社電車開業100周年記念事業の文化事業の1つとして、関係者の理解を得て再度移設展示することにしたものです。

茶寮「千鐘亭」

■プロ球団等のラッピング電車運行

プロ球団等のキャラクターやロゴをあしらった電車を運行し、それぞれの団体を地域一丸となって応援していこうという機運の醸成に貢献しています。

ラッピング電車の団体名	広島東洋カープ（野球）
	サンフレッチェ広島（サッカー）
	広島交響楽団（オーケストラ）
	アンジュヴィオレ広島（サッカー）
	広島ドラゴンフライズ（バスケットボール）

カープ電車

■「路面電車まつり」と「ひろしまバスまつり」

電車・バスをご利用いただく皆様への感謝の意を込めて、6月10日の路面電車の日の前後に「路面電車まつり」を、9月20日のバスの日の前後に「ひろしまバスまつり」を開催しています。

このほかにも、「ひろしまフラワーフェスティバル」や「広島みなとフェスタ」など、地域の行事やイベントにも積極的に協力しています。

路面電車まつり

●安全・安心な街づくりへの貢献

■「犯罪の起きにくい社会づくりに関する協定」の締結

当社と広島県警察本部は、「犯罪の起きにくい社会づくりに関する協定」を締結し協力体制を確立し、犯罪被害防止や交通事故防止の広報活動、緊急時の通報・連絡等、地域の安全を守る活動を展開することとしており、ラッピング電車「モシカ号」の運行や、犯罪防止を啓発する車内放送・ポスターの掲示等に取り組んでいます。

モシカ号

■大規模災害時の帰宅困難者対策

当社と広島市は「災害時における施設等提供の協力に関する協定」を締結し、『広電本社ビル』が帰宅困難者一時滞在施設の指定を受けています。災害時に帰宅することが困難になった方に対して、一時的に施設を開放し、備蓄品や運行情報等の提供を行います。

■AEDの設置

お客様や市民の方の健康・安全を守るため、当社営業所、駅、当社所有ビルにAED（自動体外式除細動器）を配備しています。

●街・地域の賑わい創出

■KOI PLACE

KOI PLACE（コイプレ）は、広電西広島（己斐）およびJR西広島駅の駅前空間を活用した交流の拠点として、社有地（ひろでん会館跡地）に、2020年2月より3年間の暫定として運営しております。マーケットや子供向けイベント等の定期的な開催により、西広島エリアに新たな賑わいを生み出すとともに、地域住民や駅利用者の憩い・くつろぎ・交流する場を創出することで、今後進む西広島エリアのまちづくりを見据えた地域価値の向上を目指してまいります。

KOI PLACE（コイプレ）

■まちづくり組織への参画

広島都心部で活動しているエリアマネジメント団体や、官民連携のまちづくり組織「広島都心会議」に参画し、関係者と連携したまちづくり・地域全体の活性化、地域発展に向けた取り組みを行っています。都心の活性化に向けた取り組みに協力することで、交流人口拡大、回遊性向上、移動機会の創出を図ってまいります。

■広島空港運営への参画

広島空港は2021年7月より民間運営を開始しており、当社としても運営を行う広島国際空港㈱への出資、リソースの提供等により、地元の声を反映させるとともに、空港アクセス事業者としての責務を果たすこと等を通じて、空港利用者の増加を目指してまいります。また、当社及びグループ会社が担う空港連絡バス事業やグランドハンドリング事業の成長、さらには電車事業、観光関連事業等を含めた多様なグループ事業の成長や、地域経済の活性化、地方創生に資する事業展開を目指してまいります。

広島空港

■地域商社事業への参画

当社では、㈱広島銀行及び㈱中国新聞社と連携し、㈱たびまちゲート広島内に地域商社事業部を立ち上げ、人々が集う拠点の創出、運営等を行っております。広島市平和記念公園レストハウスの指定管理業務やひろぎんホールディングス本社ビル1階の賑わいフロアの運営業務等を行うとともに、地域産品の移出や着地型観光を含めた幅広い事業展開により、地域経済活性化につなげてまいります。

広島銀行本店

会社概要

●広島電鉄株式会社の概要

1. 設　　立　1942(昭和17)年4月10日
2. 本社所在地　広島市中区東千田町二丁目9番29号
3. 資　本　金　23億3,562万5千円
4. 売　上　高　(2020(令和2)年度)
   (連結)25,409百万円
   (個別)17,039百万円
5. 主な事業内容
   - 鉄･軌道事業
   - 自動車事業
   - 不動産事業
6. 従業員数　1,750名(2021(令和3)年3月31日現在)
7. 営業キロ　(2021(令和3)年3月31日現在)
   - 鉄道事業　16.1km
   - 軌道事業　19.0km
   - 自動車事業　1,333.8km
8. 輸送人員　(2020(令和2)年度)
   - 鉄道事業　1,253万人
   - 軌道事業　2,592万人
   - 自動車事業　2,912万人

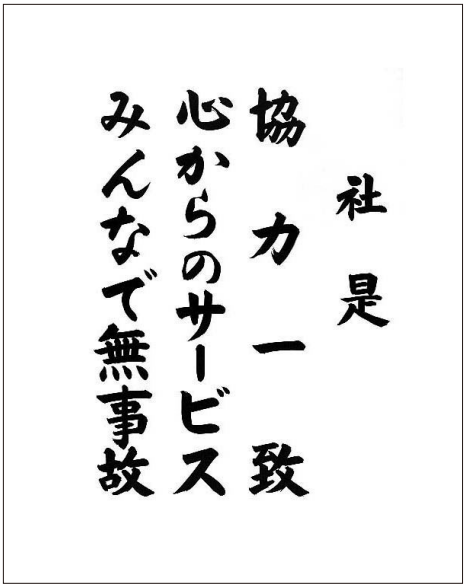
●役員一覧

(2021(令和3)年6月29日現在)

代表取締役社長	椋田　昌夫
専務取締役	仮井　康裕
常務取締役	横田　好明
常務取締役	瀬﨑　敏正
常務取締役	岡田　茂
取締役	平町　隆典
取締役	立岩　薫
取締役	田村　興造
取締役	荒本　徹哉
取締役	平田かおり
常勤監査役	尾﨑　宏明
監査役	坂井　康成
監査役	川上　清一
執行役員	末松　辰義
執行役員	八木　康夫
執行役員	山根　辰夫
執行役員	玉田　和
執行役員	小島　亮二
執行役員	東　耕一
執行役員	山田　康敬

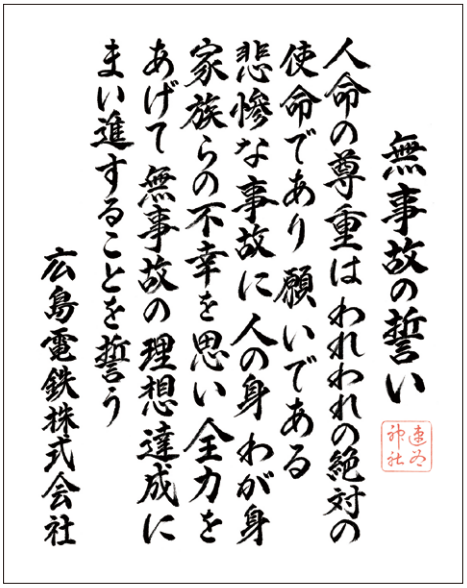
●社　是

(1962(昭和37)年3月1日改定)



●無事故の誓い

(2015(平成27)年6月1日改定)



当社の基本方針として「社是」と「無事故の誓い」を制定し、全事業所に掲出しています。
この「社是」と「無事故の誓い」は輸送の安全の確保と事故防止意識に対する、全役職員の心の拠り処として、
当社の業務推進の基礎になっています。

●社　紋

鉄路レールの断面にアーク（電弧）をからませ、それを広島のヒ（右）とロ（左）で丸く囲んでいます。
広島電鉄㈱を象徴する社紋として、1944（昭和19）年10月25日に制定しました。

●社　歌

作詞　湯井 忠臣　　作曲　才木 幹夫

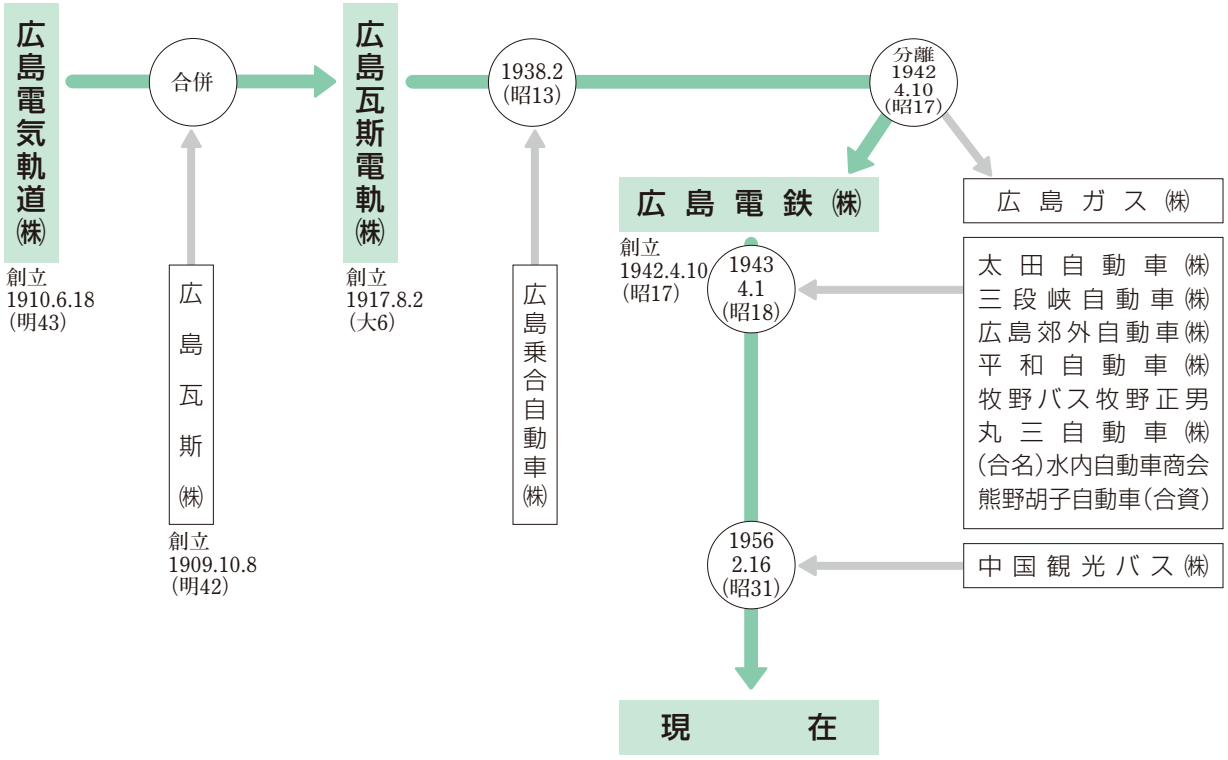
1. あかつきの　轍はひびく
　胸に満つ　生きるよろこび
　われらゆく　東に西に
　輝きて　進む広電

2. 栄えあれ　デルタの都
　とこしえに　清き川波
　変らざる　まことを誓い
　脈うちて　進む広電

3. さみどりの　風さわやかに
　人びとの　夢こそ乗せて
　野に山に　光をはこぶ
　萌えたちて　進む広電

1957（昭和32）年10月3日に、当社創立15周年を機に「社是」とともに制定しました。戦中戦後の危機を脱し、高度経済成長や当社として事業拡大を積極的に進めていた当時の雰囲気を今に伝える歌詞になっています。

●会社沿革図



●沿　革

■広島電気軌道(株)

軌道敷設の波が西へのびていた1909(明治42)年、大阪大林組の創設者大林芳五郎氏が、発起人を代表して広島における電気軌道の敷設を申請し、翌1910(明治43)年6月18日広島電気軌道(株)が誕生しました。

こうして諸準備のととのった1912(大正元)年11月23日、広島市内に初の路面電車が走りました。この日運行を開始した路線は、本線(広島駅～相生橋)、西塔川線(紙屋町～鷹野橋)、御幸橋線(鷹野橋～御幸橋)、常盤橋線(八丁堀～白島)の4路線で、2週間後の12月8日には相生橋～己斐間が開通しました。これが当社の電車の開業です。(当時の車両数50両)。

その後、1915(大正4)年には御幸橋以南の宇品線が開通しています。

■広島瓦斯電軌(株)

1917(大正6)年8月2日、同社は広島瓦斯(株)と合併して、広島瓦斯電軌(株)となりました。同年11月には横川線(左官町～横川駅)が開通し、鉄道線の宮島線は、まず1922(大正11)年に己斐～草津間を開通し、その後段階的に延伸を進め、1931(昭和6)年に宮島口までの全線が開通しました。また、沿線の楽々園では住宅地・遊園地の開発を進め、宮島線の利用者増加を図りました。

さらにバス部門については、1938(昭和13)年2月、広島市内に6路線を持つ広島乗合自動車(株)(1928(昭和3)年設立)を合併して自動車部を創設し、バス事業も展開していきました。

■広島電鉄(株)

日中戦争が長期化する中、前年12月には太平洋戦争の開戦した1942(昭和17)年4月10日、産業別統制の国策により、広島瓦斯電軌(株)から電車・バスによる交通運輸部門を分離し、新たに広島電鉄(株)が発足しました。

分離独立後、1943(昭和18)年12月には電車江波線の一部が開通し、1944(昭和19)年6月には江波線全線が、同年12月には比治山線がそれぞれ開通し、現在とほぼ同じ電車路線網が完成しました。

一方でバス事業についても、政府からさらに区域内の同種事業を統合するよう指示を受け、1943(昭和18)年4月には、太田自動車(株)などバス事業者8社から総免許キロ1,278.34km、車両数108両を譲り受けて今日のバス事業の基盤を確立しました。

しかし、1945(昭和20)年8月6日、原爆の惨禍に見舞われた広島市に路線や施設の大半を有する当社にとって、その被害は甚大なもので、社員・関係者の死者185名、負傷者266名、市内線電車は123両中108両の車両が全焼または破損、宮島線電車は22両中8両が小破、バスは100両中68両が全焼または破損という状況でした。このほか、建物や電柱・架線等にも大きな被害を受けたものの、当社は広島市や軍当局の協力を得て同日午後から直ちに復旧にとりかかり、わずか3日後の8月9日には、己斐～西天満町間で市内電車が運行を再開しました。再び走り始めた電車は、打ちひしがれた市民を勇気づけたと言われています。

■電車・バス・不動産部門の発展と経営の多角化

戦後、原爆による被害と物資不足の困難の中、当社は経済復興とともに増加した輸送需要に応えるべく、車両・施設の復旧に続いて、電車の輸送力アップや市内線・宮島線の直通運転、バス路線の延伸や貸切バス事業の拡大等に取り組みました。また、1955年(昭和30年代)からは大手私鉄各社の取り組みを参考に、経営基盤の安定化を図るため、新たに設立・出資した関連会社を通じて観光・レジャー事業や不動産事業等へも進出し、経営の多角化を図りました。

昭和30年代後半からは、広島市内にもモータリゼーションの波が押し寄せ、電車は、軌道敷内に乗り入れた自動車に運行が妨げられ、一時は存続が危ぶまれるほどの利用者減に直面したほか、バスも慢性的な交通渋滞等による走行環境の悪化や地方の過疎化等により、利用者が激減していきました。しかしながら、当社は様々な取り組みにより輸送の効率化や合理化を進めたほか、行政の支援も得て、危機を乗り越えました。

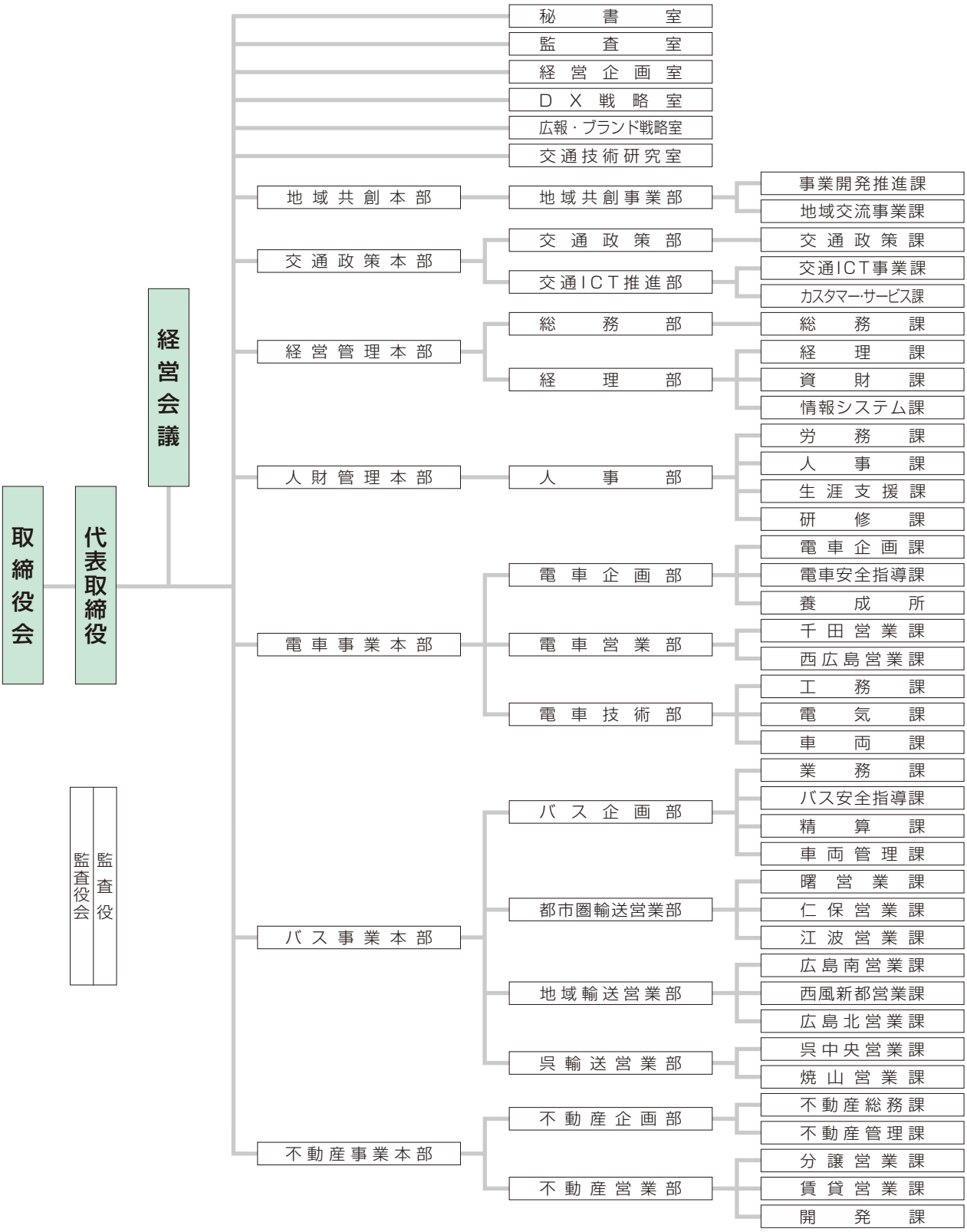
また、1969(昭和44)年には不動産部を設立し、広島市の近郊地域の大規模住宅団地の開発に着手する等、不動産事業へ本格的に進出しました。

昭和50年代以降、電車部門では車両・設備の近代化や電車の観光資源化、バス部門では広島市近郊の団地路線や高速バスの運行、不動産部門ではマンション事業・賃貸事業へ乗り出し、急速に変化する時代に即した施策を打ち出していきました。近年では、「人と環境にやさしく、安全で快適に暮らせる街づくり」をキーワードに、電車・バス運行の安全管理の徹底や、環境対策、バリアフリー化、高品質で付加価値の高い不動産開発等に積極的に取り組んでいます。

また、当社を中心とする17社で構成する広電グループは、グループ全体の収益力の強化と安定した経営基盤の構築を目標とし、グループ各社が相互に連携、協力しながら、新しいサービスや商品の開発に努める一方で、最終的にグループ会社それぞれが自立した企業経営を可能にすることにより、グループ全体での持続的な成長の実現をめざしています。

●広島電鉄株式会社組織図

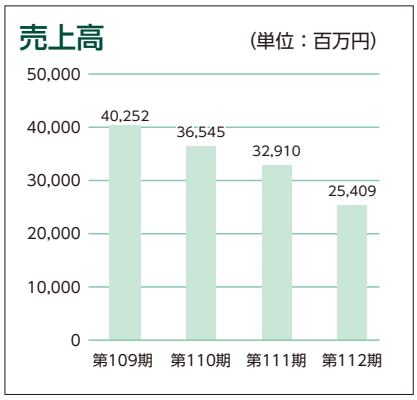
2021（令和3）年4月1日現在

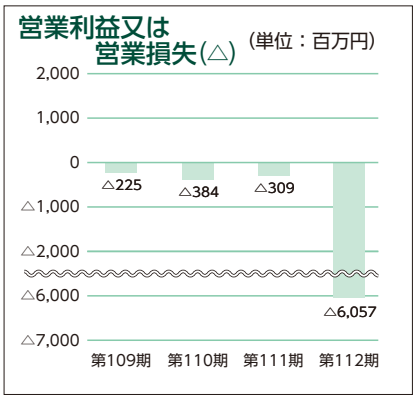


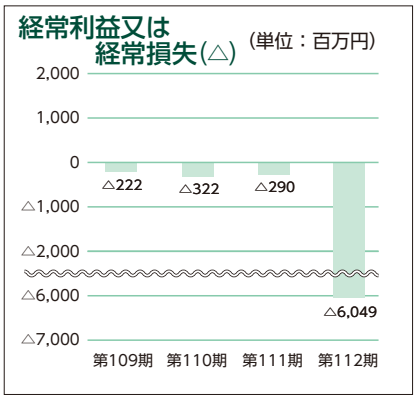
連結業績ハイライト

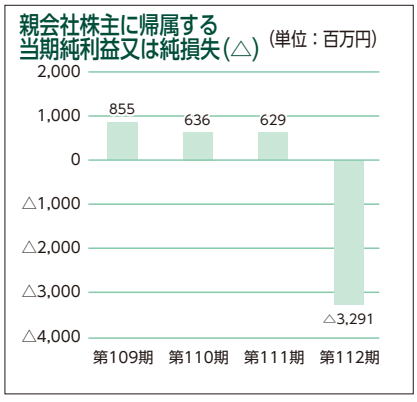
		第109期 2018年3月期	第110期 2019年3月期	第111期 2020年3月期	第112期 2021年3月期
売上高	(百万円)	40,252	36,545	32,910	25,409
営業損失(△)	(百万円)	△ 225	△ 384	△ 309	△ 6,057
経常損失(△)	(百万円)	△ 222	△ 322	△ 290	△ 6,049
親会社株主に帰属する当期純利益又は純損失(△)	(百万円)	855	636	629	△ 3,291
1株当たり当期純利益又は純損失(△)	(円)	28.22	20.98	20.76	△ 108.51
総資産	(百万円)	88,713	88,758	89,831	92,121
純資産	(百万円)	42,355	42,178	42,275	39,384
自己資本比率	(%)	46.5	46.3	45.8	41.7
1株当たり純資産	(円)	1,361.22	1,354.24	1,355.85	1,265.12

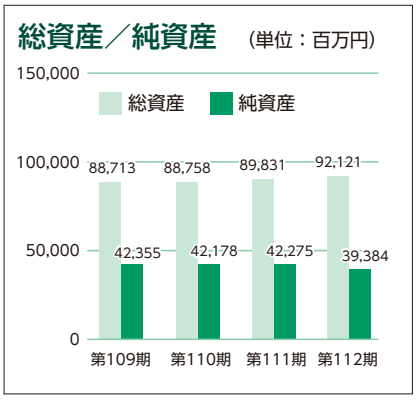
注）当社は、2017年9月1日付けで普通株式2株につき普通株式1株の割合で株式併合を行っております。
第109期連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、「1株当たり純資産」を算定しております。

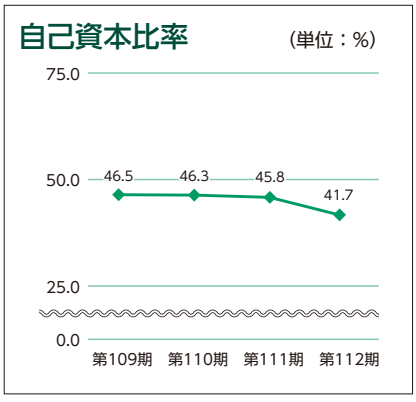












連結財務諸表（要旨）

連結貸借対照表 2021年3月31日現在 （単位：百万円）

科　目	金　額
資産の部	
流動資産	**13,473**
現金及び預金	5,287
受取手形及び売掛金	2,228
販売土地及び建物	3,433
未成工事支出金	78
商品及び製品	55
原材料及び貯蔵品	591
その他	1,801
貸倒引当金	△ 4
固定資産	**78,648**
有形固定資産	70,700
建物及び構築物（純額）	18,202
機械装置及び運搬具（純額）	5,968
土地	43,837
建設仮勘定	1,918
その他	773
無形固定資産	594
借地権	28
その他	566
投資その他の資産	7,353
投資有価証券	4,106
長期貸付金	55
繰延税金資産	213
退職給付に係る資産	2,447
その他	594
貸倒引当金	△ 64
資産合計	**92,121**

科　目	金　額
負債の部	
流動負債	**22,558**
支払手形及び買掛金	986
短期借入金	8,301
1年内償還予定の社債	87
未払金	2,979
未払法人税等	383
未払消費税等	894
未払費用	1,709
預り金	2,341
賞与引当金	1,022
役員賞与引当金	13
その他	3,837
固定負債	**30,178**
社債	137
長期借入金	13,376
繰延税金負債	1,177
再評価に係る繰延税金負債	9,936
退職給付に係る負債	1,277
その他	4,273
負債合計	**52,737**
純資産の部	
株主資本	**14,237**
資本金	2,335
資本剰余金	2,011
利益剰余金	9,968
自己株式	△ 77
その他の包括利益累計額	**24,157**
その他有価証券評価差額金	983
土地再評価差額金	22,349
退職給付に係る調整累計額	823
非支配株主持分	**989**
純資産合計	**39,384**
負債純資産合計	**92,121**

連結損益計算書 2020年4月1日から2021年3月31日まで （単位：百万円）

科　目	金　額
営業収益	25,409
運輸業等営業費及び売上原価	25,028
販売費及び一般管理費	6,438
営業損失（△）	△ 6,057
営業外収益	753
営業外費用	745
経常損失（△）	△ 6,049
特別利益	5,558
特別損失	2,220
税金等調整前当期純損失（△）	△ 2,711
法人税、住民税及び事業税	113
法人税等調整額	615
当期純損失（△）	△ 3,440
非支配株主に帰属する当期純損失（△）	△ 148
親会社株主に帰属する当期純損失（△）	△ 3,291

連結キャッシュフロー計算書 2020年4月1日から2021年3月31日まで （単位：百万円）

科　目	金　額
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,889
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,939
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,246
現金及び現金同等物の増減額	1,196
現金及び現金同等物の期首残高	4,013
現金及び現金同等物の期末残高	5,210

連結株主資本等の変動額一覧 2020年4月1日から2021年3月31日まで （単位：百万円）

	当期首残高	当期変動額	当期末残高
株主資本			
資本金	2,335	−	2,335
資本剰余金	2,008	3	2,011
利益剰余金	13,389	△ 3,421	9,968
自己株式	△ 88	10	△ 77
株主資本合計	17,645	△ 3,407	14,237
その他の包括利益累計額			
その他有価証券評価差額金	492	491	983
土地再評価差額金	22,463	△ 113	22,349
退職給付に係る調整累計額	528	295	823
その他の包括利益累計額合計	23,484	673	24,157
非支配株主持分	1,145	△ 156	989
純資産合計	**42,275**	**△ 2,890**	**39,384**

注）当一覧表は決算発表で開示された「連結株主資本等変動計算書」を基に参考情報として読みやすく配置を整理したものです。

個別財務諸表（要旨）

貸借対照表 2021年3月31日現在　　（単位：百万円）

科　目	金　額
資産の部	
流動資産	**8,529**
現金及び預金	1,889
未収運賃	304
未収金	1,971
未収収益	29
短期貸付金	10
販売土地及び建物	3,312
貯蔵品	537
前払金	157
前払費用	11
その他の流動資産	305
固定資産	**72,251**
鉄・軌道事業固定資産	15,458
自動車事業固定資産	13,539
不動産事業固定資産	32,702
各事業関連固定資産	2,636
建設仮勘定	1,894
投資その他の資産	6,019
関係会社株式	882
投資有価証券	3,639
長期貸付金	743
前払年金費用	1,218
その他の投資等	799
貸倒引当金	△ 1,264
資産合計	**80,781**

科　目	金　額
負債の部	
流動負債	**22,039**
短期借入金	10,165
1年内償還予定の社債	87
未払金	2,797
未払費用	1,281
未払法人税等	280
未払消費税等	800
預り連絡運賃	105
預り金	1,522
前受運賃	481
前受金	3,379
前受収益	169
賞与引当金	809
その他の流動負債	158
固定負債	**26,780**
社債	137
長期借入金	12,220
繰延税金負債	808
再評価に係る繰延税金負債	9,936
退職給付引当金	493
関係会社事業損失引当金	142
その他の固定負債	3,040
負債合計	**48,819**
純資産の部	
株主資本	**8,635**
資本金	2,335
資本剰余金	1,975
利益剰余金	4,378
自己株式	△ 55
評価・換算差額等	**23,326**
その他有価証券評価差額金	976
土地再評価差額金	22,349
純資産合計	**31,961**
負債純資産合計	**80,781**

損益計算書 2020年4月1日から2021年3月31日まで　　（単位：百万円）

科　目		金　額
鉄・軌道事業	営業収益	4,698
	営業費	6,653
	営業損失（△）	△ 1,954
自動車事業	営業収益	7,298
	営業費	10,809
	営業損失（△）	△ 3,510
不動産事業	営業収益	5,042
	営業費	3,525
	営業利益	1,517
全事業営業収益		17,039
全事業営業費		20,987
全事業営業損失（△）		△ 3,948
営業外収益		1,146
営業外費用		1,275
経常損失（△）		△ 4,077
特別利益		3,976
特別損失		2,345
税引前当期純損失（△）		△ 2,446
法人税、住民税及び事業税		13
法人税等調整額		383
当期純損失（△）		△ 2,843

株主資本等の変動額一覧 2020年4月1日から2021年3月31日まで　　（単位：百万円）

	当期首残高	当期変動額	当期末残高
株主資本			
資本金	2,335	－	2,335
資本剰余金	1,975	－	1,975
利益剰余金	7,352	△ 2,973	4,378
（剰余金の配当）		※△ 243	
（当期純利益）		※△ 2,843	
（土地再評価差額金の取崩）		※113	
自己株式	△ 55	△ 0	△ 55
株主資本合計	11,608	△ 2,973	8,635
評価・換算差額等			
その他有価証券評価差額金	491	485	976
土地再評価差額金	22,463	△ 113	22,349
評価・換算差額等合計	22,954	371	23,326
純資産合計	**34,563**	**△ 2,601**	**31,961**

注）※は利益剰余金の内数です。

●株式の発行状況(2021(令和3)年3月31日現在)

発行可能株式総数	120,000,000株
発行済株式総数	30,445,500株
株主数	4,625名
1単元の株式数	100株

●広島電鉄の株主優待制度

毎年3月31日および9月30日の最終の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主に対して、その所有株式数に応じて次のとおり株主優待乗車券・乗車証および広電グループ諸施設株主ご優待割引券を発行、ならびに株主優待選択商品を贈呈します。

1. 株主優待乗車券・乗車証(年2回)

基準株式数	優待乗車券・乗車証の種別	枚数
500株以上	電車全線乗車券(1枚1乗車有効)	4枚
1,500株以上		8枚
2,500株以上		12枚
3,500株以上		16枚
4,500株以上		20枚
5,500株以上		24枚
6,000株以上	電車・広島都心部エリアバス乗車証(1名記名式)	1枚
12,000株以上	バス全線乗車証　または電車・広島都心部エリアバス乗車証(1名記名式)	1枚
	電車全線乗車券(1枚1乗車有効)	12枚
18,000株以上	電車・バス全線乗車証	1枚
75,000株以上	電車・バス全線乗車証(1名記名式)(2枚目以降持参人式選択可)	2枚
150,000株以上	電車・バス全線乗車証(1名記名式)(2枚目以降持参人式選択可)	3枚

1. 広島空港リムジンバス、呉広島空港線、米子線はご使用いただけません。
2. 三次・庄原線、松江線、浜田線、広島呉線(クレアライン)、エキまちループ、まちのわループはご使用いただけます。ただし、広電便以外はご使用いただけません。
3. 当社が定めるシャトルバス・臨時便・社会実験便等にはご使用いただけません。詳しくは当社株式担当までお問い合わせください。

2. 広電グループ諸施設ご優待割引券(年2回)

100株以上	広電グループ諸施設ご優待割引券	1セット

広電建設・広電ボウル・広電ゴルフ・グリーンバーズゴルフ倶楽部・たびまちゲート広島・宮島ロープウェーの優待割引券が1セットになっています。
(内容は変更することがあります。)

3. 株主優待選択商品(年2回)

500株以上	広島県産品など	1セット品

4. 各優待券の交付(発送)時期および有効期間

	3月末日現在の株主様		9月末日現在の株主様	
	交付(発送)時期	有効期間	交付(発送)時期	有効期間
株主優待乗車券	5月末	—	11月末	—
株主優待乗車証		11月末日まで		5月末日まで
広電グループ諸施設ご優待割引券	6月末	12月末日まで	12月末	6月末日まで
株主優待選択商品	6月	8月末日必着	12月	2月末日必着

※各優待券はお手元に届いた日からご利用いただけます。

株式優待の事務は、
当社総務課(株式担当)で取り扱っております。

〒730-8610
広島市中区東千田町2丁目9番29号　広電本社ビル4階
☎ 082-242-3522
ホームページアドレス　https://www.hiroden.co.jp/

グループ紹介

広電グループ

広電グループは、広島電鉄を中核として、交通運輸・流通・不動産・建設・レジャー・観光・保険・ゴルフ場・飲食等、幅広い分野で地域の産業・文化の発展興隆に寄与しています。

備北交通株式会社

■所在地／〒727-0011 庄原市東本町三丁目12番12号
■電話番号／TEL(0824)72−2122
FAX(0824)72−6673
■資本金／4,500万円　■設立年月日／1946(昭和21)年11月
■社長／山根　英徳　■従業員数／99名
■主な事業内容／バス事業(乗合バス62両、貸切5両、特定2両)、旅行業
■事業概要／広島県の庄原市、三次市、安芸高田市を中心とした県北一帯にバス路線網を持ち、また高速バス東城〜広島線をはじめ、県北と広島市とを結ぶ直通バスや観光バスも運行。

有限会社やまとタクシー

■所在地／〒739-0603 大竹市西栄三丁目1番18号
■電話番号／TEL(0827)52−4181
FAX(0827)52−4183
■資本金／500万円
■設立年月日／1953(昭和28)年11月
■社長／越水　隆久
■従業員数／16名
■主な事業内容／タクシー業(車両27台)
■事業概要／広島県の西の玄関口、臨海工業都市の大竹市に本社を置き、地元企業の送迎を中心に営業。

芸陽バス株式会社

■所在地／〒739-0043 東広島市西条西本町21番39号
■電話番号／TEL(082)424−4721
FAX(082)424−4724
■資本金／10,000万円　■設立年月日／1931(昭和6)年1月
■社長／安井　千明　■従業員数／169名
■主な事業内容／バス事業(乗合バス105両、貸切バス12両、特定4両)、旅行業、不動産業、保険代理業
■事業概要／東広島市を中心とした県中央部を主な営業エリアとして、乗合バス、貸切バス事業を経営。旅行業も併営。

広島観光開発株式会社『宮島ロープウエー』

■所在地／〒739-0522 廿日市市宮島町紅葉谷公園
■電話番号／TEL(0829)44−0316
FAX(0829)44−0656
■資本金／12,500万円　■設立年月日／1956(昭和31)年8月
■社長／井手ヶ原　誠　■従業員数／31名
■主な事業内容／索道業(宮島ロープウエー)、同付帯事業(レストラン、売店)
■事業概要／瀬戸内海に浮かぶ宮島、厳島神社。その南にある紅葉谷公園とご神体として信仰された弥山頂上手前の獅子岩を結ぶ『宮島ロープウエー』を運営。展望レストラン『獅子岩』や売店も併営。

エイチ・ディー西広島株式会社『ボン・バス』

■所在地／〒733-0815 広島市西区己斐上五丁目56番6号
■電話番号／TEL(082)507−3512
FAX(082)507−3513
■資本金／3,000万円　■設立年月日／1999(平成11)年1月
■社長／玉田　和　■従業員数／52名
■主な事業内容／バス事業(乗合バス29両、貸切バス6両)
■事業概要／広島市西部地区の団地とJR西広島駅、広島市街地を結ぶ路線バスを中型および小型の『ボン・バス』で運行。2004(平成16)年4月から貸切バスの運行も開始。

宮島松大汽船株式会社『松大船』

■所在地／〒739-0505 廿日市市宮島町853番
■電話番号／TEL(0829)44−2171
FAX(0829)44−2468
■資本金／6,000万円　■設立年月日／1957(昭和32)年4月
■社長／倉本　照明　■従業員数／31名
■主な事業内容／海上運送業(旅客船[フェリー]3隻)
■事業概要／世界文化遺産に登録され、日本三景の一つである宮島と、その玄関口である宮島口との間、海上2キロを約10分で結ぶ一般旅客定期航路。旅客便は15分間隔(多客時は10分間隔)、自動車航送便は30分間隔で運航している。

ひろでんモビリティサービス株式会社

■所在地／〒730-0831 広島市中区江波西1丁目24番59号
■電話番号／TEL(082)208−5750
FAX(082)233−5011
■資本金／3,000万円
■設立年月日／2020(令和2)年2月
■社長／栗栖　康範
■従業員数／14名
■主な事業内容／バス事業、都市型ハイヤー事業(車両数12両)
■事業概要／小規模で移動する旅客需要に柔軟に対応する、五日市AIオンデマンドバス、都市型ハイヤー。

広島観光汽船株式会社

■所在地／〒739-0411 廿日市市宮島口一丁目11番6号
■電話番号／TEL(0829)56−0307
■資本金／4,000万円
■設立年月日／1957(昭和32)年6月
■社長／倉本　照明
■従業員数／3名
■主な事業内容／海上運送業
■事業概要／宮島松大汽船(株)が100%出資する会社で、出改札など陸上業務を受託。

広電エアサポート株式会社

■所在地／〒730-0053 広島市中区東千田町二丁目11番20号
広電本社ビル別館3階
■電話番号／TEL(082)249−2491(総務部)
FAX(082)244−1246
■資本金／9,800万円　■設立年月日／1954(昭和29)年6月
■社長／落合　央範　■従業員数／103名
■主な事業内容／航空運送代理業、損害保険代理店業
■事業概要／航空運送代理業(広島空港でJAL地上旅客・手荷物・貨物業務[受託]、国際貨物保税蔵置場業務・管理棟業務)、損害保険代理店業、石油製品販売業を経営。

株式会社広電宮島ガーデン

■所在地／〒731-5136 広島市佐伯区楽々園二丁目2番2号
■電話番号／TEL(082)208−0593
FAX(082)208−0596
■資本金／5,000万円
■設立年月日／1965(昭和40)年10月
■社長／中田　幸男　■従業員数／39名
■主な事業内容／施設運営管理業、サービスエリア事業(飲食、小売)
■事業概要／宮島口旅客ターミナル直結の観光商業施設「etto」、山陽自動車道の「宮島サービスエリア(下り線)」、「下松サービスエリア(下り線)」を経営。

株式会社交通会館

■所在地／〒732-0056 広島市東区上大須賀町1番16号
■資本金／15,625万円
■設立年月日／1999(平成11)年3月
■社長／椋田　昌夫
■従業員数／－名
■主な事業内容／不動産賃貸業
■事業概要／中国地方のバス・電車14社の共同出資会社で土地建物の賃貸が主事業。2000(平成12)年9月7階建て完成。業界団体のほか一般テナントも入居。

広電建設株式会社

■所在地／〒730-0053 広島市中区東千田町二丁目9番57号 広電タワービル3階
■電話番号／TEL(082)243−7110
FAX(082)243−7199
■資本金／5,000万円
■設立年月日／1971(昭和46)年4月
■社長／瀬﨑　敏正　■従業員数／64名
■主な事業内容／土木、建築、住宅、不動産業
■事業概要／広島市を舞台に、都市基盤の整備・新しい住環境の創造に取り組む総合建設業、不動産業を経営。

大亜工業株式会社

■所在地／〒730-0825 広島市中区光南六丁目3番81号
■電話番号／TEL(082)241−4281
FAX(082)241−4325
■資本金／24,150万円
■設立年月日／1953(昭和28)年11月
■社長／小林　達郎　■従業員数／120名
■主な事業内容／電気工事・電気通信工事・鋼構造物工事・土木工事・各種自動化設備・装置の設計製作など
■事業概要／電気・通信・自動化設備の総合エンジニアリング。

株式会社ヒロデンプラザ

■所在地／〒730-0047 広島市中区平野町10番16号
■電話番号／TEL(082)243−5000
FAX(082)240−1924
■資本金／4,000万円
■設立年月日／1970(昭和45)年5月11日
■社長／折本　佳典　■従業員数／14名
■主な事業内容／ボウリング、ゴルフ練習場
■事業概要／中区平野町でボウリング場『広電ボウル』(40レーン)を、東区東山町ではゴルフ練習場『広電ゴルフ』(90打席)と、ゴルフショップ「ゴルフパートナー広電ゴルフ店」を経営。

株式会社グリーンバーズ・ヒロデン

■所在地／〒729-1211 三原市大和町大草20905番37
■電話番号／TEL(0847)33−1751
FAX(0847)33−1753
■資本金／9,000万円　■設立年月日／1991(平成3年)4月
■社長／迫　孝治　■従業員数／17名
■主な事業内容／ゴルフ場経営
■事業概要／自然の地形を存分に活かしたゆとりのある広大なコースレイアウトを、自然林でセパレートした杉原輝雄プロ監修によるゴルフ場を運営。

株式会社たびまちゲート広島

■所在地／〒730-0021 広島市中区胡町3番19号 中国ビル
■電話番号／TEL(082)543−2020
FAX(082)543−2019
■資本金／15,000万円　■設立年月日／2002(平成14)年12月
■社長／長沢　伸彦　■従業員数／49名
■主な事業内容／旅行業、地域商社事業、小売業
■事業概要／上質な旅のちゅーピーツアー、登山、講師同行の旅など広島発着の旅行商品をはじめ、社内旅行、修学旅行などの企画手配、地域商社事業として施設の管理運営事業や特産品販売などを展開。

広電グループ
各社ホームページはこちらから

■広島電鉄ホームページ広電グループ情報
https://www.hiroden.co.jp/group/index.html

略年表

●写真で見る当社の歩み

1912年
電車開業

日本の各都市で路面電車の導入機運が高まっていた中、広島の新時代を象徴するかのように路面電車が開業しました。

1954年
バスデザインを現行に変更

1938年に当社の前身である広島瓦斯電軌㈱によって自動車部が創設され、都市部、郊外に張り巡らされた路線で広島に住む人々の暮らしを支えてきました。

1969年
不動産部開設

広島瓦斯電軌㈱の頃から、宮島線沿線の開発を手掛けていましたが、不動産部開設後は、観音台、翠光台、毘沙門台といった大型住宅団地を次々に開発しました。

1971年
軌道敷内諸車乗り入れ禁止の実施

モータリゼーションによって一時電車の利用者数は減少に転じましたが、軌道敷内諸車乗り入れ禁止が実施されたことで走行環境が向上し、定時運行が確保されるようになりました。

1980年
電車ロケーションシステム導入

当初広島駅～広電西広島間に導入されたロケーションシステムはやがて全線に導入され、現在では到着予測や文字案内など多種多様な情報をリアルタイムで表示できるような新たなシステムが導入されています。

1997年
ノンステップバスの導入

広島県では初となるノンステップバスを導入しました。低公害車両や低床車両の導入の推進によって、お客様により安全で快適にご乗車いただけるように取り組みを進めています。

2003年
交通結節点の改善整備（横川駅・広島港電停）

横川駅ではJR駅前広場へ電停を移設、市内中心部への新系統を運行開始し、広島港では港湾事業に合わせ、新ターミナル前に電停を移設し、他の交通機関との乗換が便利になりました。

2005年
グリーンムーバーマックス営業運転開始

斬新なデザインで、快適性・利便性を向上させた国産初の完全超低床車両「グリーンムーバーマックス」を導入しました。

2009年
契約社員を正社員化

新職種別賃金制度を導入し、契約社員を正社員化しました。

2012年
電車開業100周年

2012年11月23日に電車開業から100年の節目を迎え、広電グループは新たな世紀へと歩み出しました。

2015年
バスロケーションシステム「くるけん」導入開始

バスの到着予測時間などを、スマートフォンやパソコン、主要バス停に設置した画面から確認できるようになりました。

2015年
「西風新都グリーンフォートそらの」竣工

石内東地区に「西風新都グリーンフォートそらの」が竣工しました。

2016年
Visit Hiroshima Tourist Pass 発売開始

訪日外国人旅行客向け乗車券として、広島県内の電車・バス・フェリーを利用できる乗車券を県内の事業者と共同で発売開始しました。

2017年
「スタートラム広島」竣工

八丁堀に、当社と日本生命保険相互会社が共同で進めた複合オフィスビル「スタートラム広島」が竣工しました。

2018年
「エキまちループ」運行開始

広島市中心部において、広島市都心循環バス「エキまちループ」を、広島バス㈱と共同で運行開始しました。

2019年
グリーンムーバーエイペックス営業運転開始

これまでにないデザインと多言語対応の液晶車内案内表示器を備えた超低床車両「グリーンムーバーエイペックス」を導入しました。

●広島電気軌道（株）

1910	明治43年	6.18	広島電気軌道（株）設立 社長　大林芳五郎 資本金300万円1/4払込
1912	大正 元年	11.23	創業（軌道線開業） 本線（広島駅～紙屋町～相生橋） 西塔川線（紙屋町～鷹野橋） 御幸橋線（鷹野橋～御幸橋） 常盤橋線（八丁堀～白島） 木製二重屋根単車A形50両
		12. 8	本線延長 （相生橋～左官町～土橋～己斐）
1915	大正 4年	4. 8	宇品線単線開通 （御幸橋東詰～向宇品）

●広島瓦斯電軌（株）

1917	大正 6年	8. 2	広島瓦斯電軌（株）発足 社長　藤田　謙一 資本金600万円（増資） 広島瓦斯（株）と合併
		11. 1	横川線単線開通（左官町～横川駅）
1919	大正 8年	5.25	御幸橋電車専用橋竣工、宇品線直通運転開始
1921	大正10年	12.27	資本金1,000万円（増資）
1922	大正11年	8月	廿日市変電所新設（600V直通キ電）
		8.22	宮島線開業（己斐～草津）
1924	大正13年	4. 6	宮島線延長（草津～廿日市）
1925	大正14年	7.15	宮島線延長（廿日市～地御前）
1926	大正15年	7.15	宮島線延長（地御前～新宮島）
1931	昭和 6年	2. 1	宮島線全線開通（新宮島～宮島口）
1934	昭和 9年	6月	千田町火力発電所廃止、変電所に
1935	昭和10年	12.27	宇品線移設（専売局～向宇品） 土手下から現在経路に移設複線化
1936	昭和11年	9. 8	楽々園遊園地営業開始
1938	昭和13年	2. 1	広島乗合自動車（株）を合併 自動車部創設

●広島電鉄（株）

1942	昭和17年	4.10	広島電鉄（株）創立 社長　山口　吾一 資本金750万円 （広島瓦斯電軌（株）より交通事業を分離）
1943	昭和18年	4. 1	政府のバス事業統合方針に基き、つぎの旅客自動車輸送事業を合併 （108両総免許キロ1,278.34km） 太田自動車（株） 三段峡自動車（株） 広島郊外自動車（株） 平和自動車（株） 牧野バス　牧野正男 丸三自動車（株） （合名）水内自動車商会 熊野胡子自動車（合資）
		4月	広島電鉄家政女学校を設置 （昭和19.3.24皆実町に新校舎完成、原爆により廃校）
		11. 5	資本金785万円（増資）
		12.28	江波線（土橋～舟入本町1,012m）複線開通
1944	昭和19年	6.20	江波線（舟入本町～舟入南町1,240m）延長単線開通
		8月	市内電車車両の集電装置トロリーポール式からビューゲル式に改良
		10.25	「社紋」新たに制定
		12.26	左官町～土橋間軌道変更
		12.27	皆実線（的場～比治山下～皆実町三丁目）複線開通—宮島線撤去レール使用
1945	昭和20年	3.15	多山恒次郎取締役社長に就任
		8. 6	広島に原子爆弾投下 市内電車・市内バス全線不通
		8. 9	市内電車己斐～西天満町間復旧運転開始（宮島線 廿日市変電所から送電）、以後順次各線復旧
1946	昭和21年	7. 1	郊外バス布営業所開設 （宇津営業所を移転、昭和27.7.16加計営業所に移転）
1947	昭和22年	6. 5	資本金1,600万円（増資）
		11. 1	鷹匠町（現　本川町）に中央変電所新設
		11.26	資本金3,200万円（増資）
1948	昭和23年	7.26	資本金6,500万円（増資）
		12.18	市内電車復旧（横川橋～横川） 白島線を除き市内電車全線復旧
1949	昭和24年	1.10	八丁堀に郊外バス営業拠点を新設
		6.22	広島証券取引所上場
		10.10	資本金1億3,500万円（増資）
1950	昭和25年	11.26	宮島口電車車庫新築
1951	昭和26年	2.10	高須変電所新築
		4. 1	向宇品～宇品間（200m）路線延長
1952	昭和27年	4. 3	資本金2億2,000万円（増資）
		4.26	伊藤信之取締役社長に就任
		5.16	多山恒次郎取締役会長に就任
		6.10	市内電車白島線 新線により運転再開

1952	昭和27年	7.16	郊外バス加計営業所新設（平成6.10.1出張所に変更）
1954	昭和29年	1. 7	市内電車 舟入南町～江波線開通（300m）
		4. 1	広告業務直営化
		6.10	広電観光（株）設立
		8月	バスデザインを現行に変更
		12.25	平野町に市内自動車事務所・車庫完成
1955	昭和30年	1.10	広島バス（株）と市内バス路線調整
1956	昭和31年	2.16	中国観光バス（株）買収（保有車両11台）
		8. 1	広島観光開発（株）設立（昭和34.4.1宮島ロープウエー営業開始）
1957	昭和32年	6.24	広島観光汽船（株）設立
		10. 3	「社歌」制定
		10.23	岩国営業所を新設（平成3.2.1廃止）
		11.21	基町に郊外自動車課事務所・車庫完成
1958	昭和33年	3. 6	宮島松大観光船（有）に出資（平成16.6.21宮島松大汽船（株）へ商号変更）
		4. 1	一部市内電車の宮島線乗り入れ開始
		9.30	郊外バス呉営業所開設（昭和54.7.9廃止）
1959	昭和34年	10.31	広電ビル完成（銀鱗不動産（株））
1960	昭和35年	3. 1	広電興産（株）設立（昭和57.6.21（株）広電ストアへ商号変更）
		4. 1	資本金3億6,000万円（増資）
		7.25	松江線運行開始
		10.25	太田川改修工事に伴い己斐車庫廃止 荒手車庫竣工
1961	昭和36年	2. 1	広電不動産（株）設立
		6. 1	（有）やまとタクシーへ資本参加
		6.10	郊外バス大竹営業所新設（昭和46.3.29廃止）
		8.10	郊外バス三次営業所新設（昭和46.3.29廃止）
		9. 1	「社是」制定
		10. 1	資本金　4億5,000万円（増資）
		12.15	伊藤取締役社長、広島商工会議所会頭就任
1962	昭和37年	10.20	「無事故の誓い」制定
		11.28	備北交通（株）に資本参加
1963	昭和38年	4. 1	広電タクシー（株）発足（タクシーの広島交通（株）と銀鱗タクシー（株）合併）（平成9.12.1営業権を売却し広電興産（株）へ商号変更）
		6.25	広電ボウリング（株）設立（昭和39.8.1広島観光開発に合併）
1964	昭和39年	1.23	熊野・千代田営業所を新設（千代田営業所は平成7.4.17出張所に変更）
		2. 1	資本金9億円（増資）
		2.11	市内バス 初めてワンマン運行開始
		3.28	芸陽バス（株）に資本参加
		9. 1	新己斐橋完成 軌道変更
		9.30	郊外バス中広営業所開設
1965	昭和40年	1.15	郊外バス沼田営業所開設（平成15.10.31廃止）
		3. 1	市内バス江波営業所開設
		9.30	大阪市交通局から中古電車購入（以後昭和53年までに神戸市、西鉄、京都市から順次購入）
1965	昭和40年	10.12	（株）広電宮島ガーデン設立（開業は昭和41.4.10）
1967	昭和42年	3.30	祇園自動車整備工場完成（平成18.7.31閉鎖）
		9.30	廿日市営業所を廃止
1969	昭和44年	5.27	伊藤信之取締役会長 堀江　明取締役社長に就任
		7.16	不動産部新設
		12. 1	白島線に広電初のワンマン電車運行開始
1970	昭和45年	5.11	（株）広電プラザ（現　（株）ヒロデンプラザ）設立（昭和45.11.6開業）
		10.18	観音台販売開始
		12.16	市内バス曙営業所開設
1971	昭和46年	4. 1	広電住宅産業（株）設立（昭和53.12.1に広電建設（株）と改称）
		5.30	月見台第1期販売開始
		6.16	大阪営業所開設（平成5.12.31廃止）
		8.31	楽々園遊園地閉鎖
		9.21	東京営業所開設（平成9.3.31廃止）
		12. 1	公安委員会により軌道敷内諸車乗り入れ禁止を実施
1972	昭和47年	1.15	県公安委員会市内郊外6路線14.3kmにバス優先レーン指定
		5.14	翠光台販売開始
		12.20	広電・広島バス2社共通回数券制度実施
1973	昭和48年	1.10	広島バスと路線調整
		2.14	（株）ホテルニューヒロデン設立（開業は昭和49.9.10）
1974	昭和49年	3.25	海岸通り～元宇品口間の交通信号機に電車優先信号設置
		4.14	毘沙門台第1期販売開始
		12.30	楽々園マンション分譲開始
1977	昭和52年	6.28	堀江　明取締役会長 石松正二取締役社長に就任
		6.30	毘沙門台第2期販売開始
1978	昭和53年	4.28	郊外バス安佐営業所開設
		10.29	広電己斐団地販売開始
1979	昭和54年	7. 9	郊外バス佐伯営業所開設（平成6.10.1出張所に変更）
1980	昭和55年	3.31	路面電車運行状況表示装置（ロケーションシステム）広島駅～己斐間完成
		12.10	軽快電車3500形営業運転開始
1981	昭和56年	9. 8	西独ドルトムント市から3両連接電車2編成購入
1983	昭和58年	8. 4	月見台第2期販売開始
		8.25	6社共通回数券発売開始
		12.20	仁保営業所開設
1984	昭和59年	5. 1	ハイウェーバス大阪線運行開始（中国自動車道経由）（昭和62.10～平成3.12までに山口・福岡・鳥取・東京・名古屋・米子・浜田の各線運行開始、平成4.11～平成20.6までに山口・名古屋・福岡・鳥取・大阪・東京線は廃止）

1984	昭和59年	6.25	郊外バス楽々園営業所開設（平成18.6.2廿日市市宮園へ移転）
1986	昭和61年	3.31	広電楽々園駅ビル完成
		11.23	東観音台販売開始
1988	昭和63年	4.21	広電タワービル賃貸開始
1989	平成 元年	6.29	石松正二取締役会長 奥窪央雄取締役社長に就任
1990	平成 2年	12.28	宮島線にATS設置
1991	平成 3年	4. 1	(株)グリーンバーズ･ヒロデン設立 （大和町ゴルフ場経営） （平成6.10.25グリーンバーズゴルフ倶楽部オープン）
		9.17	アメニティタウン仁保南販売開始
1992	平成 4年	8. 8	毘沙門台第3期販売開始
1993	平成 5年	3.25	他社と共通利用できるバスプリペイドカードシステムを導入
		10.29	広島空港リムジンバス運行開始 （5社共同運行）
1994	平成 6年	8. 1	広電本社ビル（10階建）竣工
		8.20	アストラムライン開業に伴い、安佐線路線再編
1995	平成 7年	4.17	吉田営業所を出張所に変更
1996	平成 8年	4. 1	奥窪央雄取締役会長 大田哲哉取締役社長に就任
1997	平成 9年	3.31	電車にプリペイドカード （パセオカード）システム導入
		4. 1	業務機構改正（貸切自動車部を廃止）
		12.10	ノンステップバス導入
1998	平成10年	5.16	業務機構改正 カンパニー制を導入
1999	平成11年	1.23	バスカンパニー「環境定期券制度」導入
		1.29	エイチ･ディー西広島（株）設立（平成11.4.1開業）
		3.16	(株)交通会館設立
		6. 9	超低床車両「グリーンムーバー」（5001号）営業運転開始
		8.17	西広島運転係を新井口駅ビルに事務所移転
2000	平成12年	3. 1	東京証券取引所市場第二部上場
		8.10	国土交通省の高度道路交通システム「ITS」により「グリーンムーバー」の運行情報を提供（9.20には高速バス松江線にも導入）
2001	平成13年	3. 1	自動車整備事業全面外部委託
		5.28	奥窪会長、在広島ドイツ連邦共和国名誉領事就任
		8.29	契約社員制度導入
		11. 1	広電西広島駅リニューアルオープン
2002	平成14年	4.10	「定期券グレードアップチャレンジ」スタート。どっちもバス、エリアフリーパス、シルバーパス65
		12.24	ひろでん中国新聞旅行（株）設立（平成15.10.1広電観光（株）の旅行部門、（株）中国新聞トラベルサービスを合併･統合）
2003	平成15年	3.27	横川駅電停リニューアルオープン（横川駅電停をJR横川駅前広場へ移設 4.20市内電車7号線運行開始）
2003	平成15年	3.29	広島港（宇品）電停リニューアルオープン（200m軌道延伸）
2005	平成17年	3. 1	(有)広電商事設立
		3.30	超低床車両「グリーンムーバーマックス」（5101号）営業運転開始
		5.16	西広島変電所完成
		5.20	バスカンパニーが「グリーン経営認証」取得
		9. 7	資本金21億5,000万円（増資）
		9.25	資本金23億3,562万5千円（増資）
		11.18	株式分割（1株を3株に）
		11.26	「グリーンムーバーマックス」第9回広島グッドデザイン大賞受賞
		12.22	熊野バスターミナル隣に「パーク&バスライド」用の駐車場を新設
2006	平成18年	3. 9	CNGバス運行開始
		6. 1	廿日市市役所前駅リニューアル、鉄道･バスの乗り継ぎ円滑化
		6.16	「グリーンムーバーマックス」ローレル賞受賞
		7.31	原爆ドーム前電停バリアフリー化工事完了
		11.18	中区立町に立体駐車場完成
2007	平成19年	2.14	大田取締役社長、在広島ドイツ連邦共和国名誉領事就任（2.16外務省承認）
		4. 1	広電阿品駅リニューアル、鉄道･バスの乗り継ぎ円滑化
		10.26	広電袋町電停ビル完成
		11. 1	大田取締役社長、広島商工会議所会頭に就任
2008	平成20年	1.26	バス一部路線へICカード乗車券「PASPY」導入
		2.12	新型ロケーションシステム導入（八丁堀～原爆ドーム間）
		3. 1	軌道白島線へICカード乗車券「PASPY」導入
		5.30	分譲マンション「アライヴコート西条駅前」竣工
		11.26	中国運輸局環境保全及び交通バリアフリー等関係表彰受賞
2009	平成21年	3. 1	軌道全線へICカード乗車券「PASPY」導入
		8.20	（仮称）広島紙屋町プロジェクト新築ビル着工
		9.12	バス全路線（米子線以外）へICカード乗車券「PASPY」導入完了
		10.16	新職種別賃金制度実施、契約社員を正社員化
		10.17	宮島線へのICカード乗車券「PASPY」導入により電車全線完了
		10.30	「LRT都市サミット広島2009」を広島市主催、当社共催で実施
2010	平成22年	1. 1	新退職金制度、65歳定年実施
		6.29	大田哲哉取締役会長 越智秀信取締役社長に就任
		8.20	路線バス時刻･運賃検索サービス「バスゲート」運用開始
		11. 4	シャレオ中央広場へPASPY自動チャージ機設置（H23.1.31紙屋町東西電停にも設置）

2010	平成22年	10. 9	「宇品グリーンアヴェニュー御幸の杜」分譲開始
2011	平成23年	3.31	パセオカードの使用停止
		4.29	大田取締役会長へ旭日中綬章授与
2012	平成24年	2.16	「広島トランヴェールビルディング」竣工
		2.18	分譲マンション「アンヴェール比治山公園」販売開始
		3. 9	芸陽バスの株式を取得し子会社化
		4. 1	呉市交通局のバス事業を承継し運行開始
		11.23	電車開業100周年
2013	平成25年	1. 8	椋田昌夫取締役社長に就任
		2.15	超低床車両1000形（1001号・1002号）営業運転開始
		4. 1	広電不動産（株）を吸収合併
		7. 1	呉広島空港線運行開始
2014	平成26年	1.16	業務機構改正　カンパニー制廃止
		8. 2	分譲マンション「アンヴェール五日市駅前」販売開始
		11.10	西風新都営業所開設
2015	平成27年	3.21	バスロケーションシステム「ひろしま公共交通ナビ『くるけん』」導入開始
		10.14	「被爆電車特別運行プロジェクト」が第14回日本鉄道賞特別賞受賞
		11.21	「西風新都グリーンフォートそらの」誕生祭開催
		12.25	「スタートラム広島」新築ビル着工
2016	平成28年	4. 1	広電興産（株）を吸収合併
		6.12	イベント電車「TRAIN ROUGE（トランルージュ）」営業運行開始
		10.22	分譲マンション「アンヴェール庚午中グランツ」販売開始
2017	平成29年	2.27	「hitoto広島ナレッジスクエア」竣工
		3.30	宮島口へ観光案内所開設（宮島口ツーリストインフォメーションセンター）
		8. 1	電車運賃改定により市内線180円
		9. 1	単元株式数の変更（1,000株から100株に） 株式併合（2株を1株に）
		9.11	シニア社員制度の拡充
		9.16	短時間正社員制度の導入、定年基準日の導入
		11. 1	バス180円均一運賃エリア新設
		11.30	「スタートラム広島」竣工
2018	平成30年	3.17	PASPYエリアで全国相互利用カードの片利用可
		3.17	PASPYでの直通乗継割引運賃制度実施
2018	平成30年	3.31	ひろでん会館閉館
		4.13	企業内保育施設「ひろでんまめっこ保育園」開園
		4.14	分譲タワーマンション「hitoto広島The Tower」販売開始
		5.10	1000形車両14両でのICカード全扉降車サービス開始
		5.13	共通定期券制度導入開始
		5.13	エキまちループ運行開始
		5.14	大型商業施設「THE　OUTLETS HIROSHIMA」（ジ アウトレット 広島）に路線バス乗り入れ
		10. 1	（株）広電ストアがスーパー事業および移動販売事業をマックスバリュ西日本（株）に事業譲渡
		10.31	（株）広電ストア解散
2019	平成31年令和元年	3.14	超低床車両5200形「グリーンムーバーエイペックス」（5201号）営業運転開始
		9.21	分譲マンション「ザ・府中レジデンス」販売開始
		10. 1	電車市内線ICカード再乗車サービス開始
		11.29	軌道事業の特許所得（広島駅停留所～比治山町交差点 1.1km）
2020	令和 2年	1.26	まちのわループ運行開始
		1.26	電車・バス共通乗車券（PASPY定期券）「広島シティパス」販売開始
		2.22	「KOI　PLACE（コイプレ）」グランドオープン
		2.25	ひろでんモビリティサービス（株）設立
		3.10	「MOBIRY（モビリー）デジタルチケットサービス」開始
		4. 2	観光商業施設「etto（エット）」オープン
		6.30	広島北営業課整備工場竣工
		7. 1	広島市平和記念公園レストハウスリニューアルオープン
		9.30	深夜バス廃止
2021	令和 3年	2. 1	「スマートムーバー」運行開始
		3. 1	「都市型ハイヤー」運行開始
		3.31	（株）ホテルニューヒロデン解散
		4. 1	ひろでん中国新聞旅行（株）から（株）たびまちゲート広島へ商号変更
		4. 7	広島都心会議設立・入会
		4.28	広島北営業課事務所棟竣工

表紙写真

音戸大橋・第二音戸大橋をバックに走る呉倉橋島線の広電バス（清盛塚停留所付近）。
2022年、呉市エリアバスは呉市交通局からの移管10周年を迎える。

■広島電鉄株式会社 会社要覧　2021（令和3）年12月発行

編集・発行／広島電鉄株式会社　　広島県広島市中区東千田町二丁目9番29号　TEL（082）242-3521
制作・印刷／株式会社アドプレックス　広島県広島市中区舟入南一丁目1番18号

広島電鉄

広島電鉄株式会社

Hiroshima Electric Railway Co., Ltd.

〒730-8610　広島県広島市中区東千田町二丁目9番29号
TEL（082）242-3521　FAX（082）242-3592
https://www.hiroden.co.jp/